

研究論文

道徳教材、「新島襄物語り」の開発と道徳学習指導案

—「米国に密航し、同志社大学を作った青年、新島襄」—

Development of Moral Teaching Materials, “Niijima Jo Monogatari” and Some Moral Learning Guidance Plans

—The young man, Joe Niijima who stowed away into the United States
and founded Doshisha University—

荒木 紀幸*・堀田 泰永**・松尾 廣文***
Noriyuki Araki, Yasunaga Horita, and Hirofumi Matsuo

「私たちの道徳」では、先人の名言、偉人や著名人の生き方を多く取り上げている（表1）。その中に、新島襄の妻、新島八重が取り上げられていたが、今回、八重の夫である新島襄を取り上げる。「新島襄物語り」は、鎖国の中、新島青年が様々な国禁の書物を読み、次第に自由やキリスト教、アメリカを憧れるようになった。そんなとき良心の声に従って日本を脱出してアメリカに渡り、洗礼を受け、宗教や文明、文化、民主主義、自由主義に触れ、帰国して、京都に、キリスト教主義の大学、同志社英学校、後の同志社大学を設立した偉業を、中学生（高校生）のための道徳教材として描いた。物語は（第一話）日本を脱国するまで、（第二話）アメリカ時代、（第三話）帰国後、同志社英学校を作るまで、の3つに分かれている。この物語りの主人公、新島襄が一貫して大切にしていた道徳的価値に、「希望と勇気、克己と強い意志」（A主として自分自身に関すること、（4）より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実に遂げること）や、「向上心、個性伸長」、（A（3）自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること）がある。そこで、この一貫して働いている2つの価値を取り上げ、それぞれ3時間構想（積み上げ方式）の授業を提案した。勿論、この3つの中の授業案の1つを選んで1時間授業として実践することも可能である。新島は生涯、色々な社会的場面や人間関係の中で道徳判断を行い、問題解決している。そこで別の視点からも、第一話（国際貢献、国際理解）、第二話（自主自立、自由と責任）、第三話（真理の探究、創造）を取り上げ、道徳学習指導案を用意した。授業を実践しようと考えている先生方はこれらの中から生徒の実態に見合った「新島襄物語り」と道徳学習指導案を選んで実践することができる。

キーワード：新島襄、道徳科教材、米国へ脱国、希望と勇気・克己と強い意志、向上心・個性の伸長、良心教育、道徳学習指導案

I. はじめに

2014年3月に「道徳の教科化」を具体化した道徳教育用の教材「私たちの道徳」が文部科学省から出版された。小学校と中学校の子どもたち全員に配られ、この教材を使った授業が全国で始められた。物語資料については、その大部分は文部科学省から読み物資料として既に提供済みのものである。指導案なども示されている。しかし

これ以外の、「コラム」、「小説」、「ワーク」、「格言」、「短歌」、「詩」、「ことわざ」等の道徳教材、道徳資料については、その多くが、今回の教科化のため新しく用意されたり、開発されたものである。そこで、それらにはどのような特徴が見られるかを明らかにするため、「私たちの道徳」冊子から生き方モデルを抽出し、それぞれ該当する学習指導要領の内容項目（四つの視点）と学習項目について学年別に分類し整理したのが、表1である。

*兵庫教育大学名誉教授

**元石川県小学校教諭

***日本女子大学特任教授

表1 生き方のモデルとして「私たちの道徳」が取り上げられている歴史上の人物、偉人、著名人を中心とした小学校、中学校別の表示媒体、内容、学習項目の分類

小学校		中学校		荒木紀幸 (2014) を修正 (2023)	
学年	人物、主題	内容項目	学習項目	人物、主題	内容項目
1	うきごかめ	1 (2)	勉強や仕事はしつかり行う	与謝野晶子	2 (4)
2	二宮金次郎	1 (2)	勉強や仕事はしつかり行う	与謝野晶子	2 (4)
3	武者小路実篤	1 (3)	よいことと悪いことの区別してはたさないこと	山岡鉄舟	2 (5)
4	日野原重明	2 (1)	生命を大切にすること	山岡鉄舟	2 (5)
5	河合源三郎	3 (1)	生命を大切にすること	山岡鉄舟	2 (5)
6	やなせたかし	3 (1)	生命を大切にすること	山岡鉄舟	2 (5)
7	アナープ	3 (2)	生命を大切にすること	山岡鉄舟	2 (5)
8	森の郵便屋さん	4 (2)	働くことの上さ	山岡鉄舟	2 (5)
9	櫻桃赤	1 (2)	粘り強くやり遂げる	山岡鉄舟	2 (5)
10	稲穂向子	1 (2)	粘り強くやり遂げる	山岡鉄舟	2 (5)
11	リンカン	1 (4)	正直、明るく心	山岡鉄舟	2 (5)
12	マリー・キュリー	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
13	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
14	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
15	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
16	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
17	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
18	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
19	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
20	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
21	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
22	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
23	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
24	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
25	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
26	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
27	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
28	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
29	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
30	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
31	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
32	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
33	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
34	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
35	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
36	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
37	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
38	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
39	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
40	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
41	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)
42	手塚治虫	1 (5)	自分の特徴、よいところ	山岡鉄舟	2 (5)

「私たちの道徳」の冊子の掲載統計では、読み物資料(小1.2~中学校-12.13.9-46資料)

^{そうそう} 錚々たる人物がモデル（童話を含む）となり、その数179人に達する（小学校78人、中学校101人）。中学校の本文は240頁なので、平均2.4頁に1モデルと多い（小学校の中、高学年も同様）。四つの視点を比べると、全体で「1の自分」と「4の社会」が最も多く、学年の進行と共に「社会の視点」と「他者との関わり」が重視され、発達段階への配慮が窺えた。低学年から「自然や生命の尊重」を扱っている点を評価したい。

日本人モデルは外国人の2倍（122対54）と多彩な反面、夏目漱石3回、松下幸之助・野口英雄・福沢諭吉・新渡戸稲造・ゲーテ・マザーテレサ、キュリー2回、男140人、女27人と登場回数や扱い、採択基準は曖昧である。生き方指針で顕著に多かったのは格言76種でコラム51種、読み物25種、短詩歌等の24種と続いた。これらはいずれも生き方の指針に寄与するものと考えられる。

しかしながら、多くの資料をどのような学習過程で学ばせるかは不確実で、そこには課題も多いと思えた。そこで私たちは、文科省が2014年に発行した『私たちの道徳』を、コールバーグの道徳性発達理論を手がかりに、ワークシートを追加し、子どもたちの道徳性を他律から自律の道徳に個人差に併せて着実に発達させるべく、「考える道徳を創る『私たちの道徳』教材別ワークシート集」小学1・2年編、3・4年編、5・6年、中学校編の4種類を翌年の2015年に急遽、明治図書から出版した。2017年で小学校編は2刷、中学校編は4刷とこれらは教職員の間で広く活用されたものと推定された。

II. 目的

「私たちの道徳」では、先人の名言、偉人や著名人の生き方を多く取り上げている（表1）。その中に、新島襄の妻、新島八重が取り上げられていた。今回この研究では、八重の夫である新島襄を取り上げ、道徳教材として「新島襄物語り」を表すことが第1の目的である。また、この教材を用いた道徳学習指導案をいくつか用意することを第2の目的とした。

III. 方法

昨年荒木（2023）は「新島襄の考えた良心教育とコールバーグの道徳性発達段階」を発表した。この中で、新島襄の生い立ちと同志社大学設立までの足跡を、主に「現代語で読む新島襄（2000、丸善）」と「新島襄（和田、1973）」を手がかりに辿ることで、『下級武士の子として江戸に生まれた新島青年は、鎖国の中、様々な国禁の書物を読み、次第に自由やキリスト教、アメリカを憧れるようになった。そんなとき良心の声に従って、函館に快風丸で渡り、日本を脱出してアメリカに向った。ハーディ夫妻の庇護を受け、高校大学と進学した。この間アンドーバーの教会で洗礼を受け、宗教や文明、文化、民主主義、

自由主義に触れた。新島28歳の時、外交官森有礼と会見、岩倉具視の派遣使節団の通訳を委嘱される。10年ぶりに帰国、山本覚馬と私学開業願いを出し、京都に、キリスト教主義の大学、同志社英学校、後の同志社大学を設立した（25字×82行、2050字）』と言うように要約し、文章化した。

そこでこの小論ではこれらの文章を土台として、新島襄が生きたほぼ47年間の足跡を中学生（高校生）向けの道徳教材として、分り易く、やさしく、短い文章を用いて教材化することとした。また、「新島襄物語」と格式張った形での資料提供でなく、生徒たちに語りかけるような気持ちでの資料提供にたく、題目は「新島襄物語り」とした。

まず最初に、物語の土台である「新島襄が歩んだ足跡（荒木、2023）」を3つの時期、あるいは時代に機械的に分けて、それぞれ文字数をカウントした。この結果、第一話、「日本を脱出するまで」は600字（25字×24行）の文字構成で、第二話、「アメリカ時代」は625字（25字×25行）の文字構成で、第三話は「帰国後、同志社英学校を作るまで」は850字（25字×34行）の文字構成であった。そこでこれら各話それぞれに内容を膨らませ、中学生が興味を持って読み進めるようにエピソードを交えて話を構成し、1頁A4、900字程度（50字×18行）の3頁（縦書き、挿絵、写真を含めて2700字）以内という条件で物語を作っていた。

こうして、各話が作られた。第一話は2450字（50字×49行、さし絵、2枚含む）、2700字以内（3頁、A4）の構成となった。荒木（2023）では、新島七五三太の20歳頃までの江戸での生活や国禁書を読み、アメリカへの憧れが綴られていた（600字）。しかし、脱国のために数日の短い時間内に北航する快風丸への乗船許可や函館留学許可をどのように取り付け、またアメリカへの脱出を決行した函館では、様々な人との出会いと助けの中を脱国への準備をどのように進めたか、決行前後の緊張した様子や当日の様子について殆ど触れられていなかった。今回の見直しで多くの事実や出来事に丁寧な描写が加えられた（2450字）。この一方で譜代大名、国禁の書など、馴染みのないことばや説明を要する難解なことばについて、また登場人物、例えば福士卯之吉の情報などは脚注を付けて補足し、写真（新島青年の当時の服装）を本文中に挿入する、あるいは七五三太が見た当時の函館港やロシアの病院施設の様子なども加えて、読み手の興味を刺激し、理解を助ける工夫を行った。こうして、第一話では脚注として、950字（50字×19行）が付け足された。なおこの脚注については、三話一括してまとめて、「物語り」の後に続けて示すこととした。

第二話、アメリカでの生活、アメリカ時代は荒木（2023）では625字（25字×25行）で表されていた。この中で「函館を出て上海までのベルリン号、その後ボストンまでのワイルド・ロバー号の船旅」を僅か3行の記述で済ませ

ていたので、文献に従って、新島青年がどのような心意気で日本脱出に臨んだか、それぞれの船長の対応はどのようなであったかなどが書き加えられた。更にポストンでの資産家で名士のハーディー夫妻との出会いはその後の新島の生き方を大きく決定づけたが、ハーディー夫妻と新島のエピソードについて、また新島が過ごした高校、大学の暮らし、アンドーバーの風土が新島の精神構造にどう影響したかについて、脚注の中で詳しく述べた。こうして、第二話はワイルド・ローバー号のさし絵を含め、2500字（50字×50行）となった。なお、本文中に描けなかったセイヴォー船長の男気（新島の密航を助けたことが会社に知れ、解雇された事実を新島に伝えなかった）やテイラー船長との個人的つながりについて、また、明治政府高官の森有礼や木戸孝允について、岩倉具視の派遣使節団の通訳として田中不二麿と同行するようになった経緯やベルリンでの「理事功程」の作成については脚注で追加説明した。この結果、脚注は第一話（950字）と比べて2450字（50字×49行）と大幅に増えた。（荒木、2023）の「帰国後、同志社英学校を作るまで、875字」（25字×35行）の冒頭は、「11月26日10年ぶり、帰国」とある。それから1ヶ月以上の出来事の空白があり、唐突に「大阪で木戸孝允を訪問」と続いていた。七五三太が日本に帰国して最初に何をしたかは、新島を知る上で極めて大切である。そこで丁寧に新島の足跡を辿った。

第二話の末尾の文章は、1874年11月26日に横浜に入港し、宣教師に迎えらる。10年ぶりの帰国であった。そこで第三話は、1874年11月、10年ぶりに新島は31歳で帰国、から始め、まず父母への帰国報告をと新島は、「28日東京から人力車3台を貸し切って出発した」と続けた。中仙道を通って、食事の他は休憩を取らずに20時間かけ、深夜、群馬県安中に到着。翌日、両親、姉たちと再会。約1ヶ月の間寝食を共にした。アメリカで勉強してきた人物の顔を一目見ようと、異国の珍しい話を聞こうと、遠方から訪ねてくる客も後を絶たず、新島も求めに応じて西洋の文明や教育事情、キリスト教について、家や小学校、お寺で話した。新島への異常な関心に役人は中央へ伺いを立てたが、新島なら心配無用の返事でおとがめはなかった。

新島は滞在中布教活動を行っている。例えば、後に安中教会が設立され、同志社英学校卒業生（熊本バンド）海老名弾正が仮牧師に就任、30人が新島より洗礼を受けた、新島学園の誕生等について脚注で述べた。その後新島は東京に戻り、七五三太を襄と改めて活動を始め、文部省の田中不二麿を訪ね、帰国の挨拶を行った。アメリカンボードの指示で大阪に向い、布教と大学設置の準備に入った。木戸孝允が大阪府に掛け合い、候補となった学校が大阪府知事（長崎時代キリスト教を弾圧）の外国宣教師の採用拒否で断念した。新島はその後木戸の同郷、京都府参事（後の知事）榎村正直と面談を重ね、京都府顧問の山本覚馬が紹介された。

この「襄と覚馬」の運命的な出会いは、あり得ない京都にキリスト教主義の同志社英学校を誕生させた。そこにはいくつものドラマがある。これらの話を注釈を含め盛り込んだ。襄は覚馬所有の鹿兒島藩跡地を候補地に安く譲り受け、襄、覚馬、ゴードンは同志社を結社、「私塾開業願」を京都府に出した。仏教徒の反対運動の最中、新島は文部省と折衝、事実上の最高責任者田中不二麿より「許可不苦」を得た。1875年9月4日に英学校が認可された。11月には開校式（生徒8名）が仮校舎で行われた。翌年1月3日に襄はかねてから婚約していた山本覚馬の妹、八重と結婚式をあげた。襄と出会う前の歴史に翻弄された二人、山本覚馬と八重について、また襄から見た八重の人柄等を脚注の中で資料に基づいて丁寧に取上げた。

9月に相国寺門前の英学校校舎二棟が完成し、入学生も徐々に増えた。この頃ジョーンズの斡旋で多くの熊本洋学校の学生が次々と同志社に入学してきた。学内は大きく活気づいた。彼らは「熊本バンド」と呼ばれ、齒に衣着せぬ言動に、以前からいた学生は隅に追いやられた。新島校長はこの個性豊かな学生たちを、「個儻不羈」と呼び、天下の人物に育てようとした。また彼らの影に隠れ無口で目立たない学生に対しても丁寧に接し、「自治自立」、「自修独学」を奨励した。こうして卒業して、各地の教会牧師へ、進学し海外留学へ、あるいは同志社の発展に大きく貢献するなど、育った。卒業後の学生や熊本バンドの動向、「熊本バンド」を育てたジョーンズのことを脚注で大きく取り上げられた。

1879年新島は同志社大学設置の協力を得るべく上京し勝海舟を訪問している。海舟が「大学を作る事は大変な事業であるが、何年くらいかかれば完成するつもりか」との問いに、「わが国には宗教を土台とする大学を設立する必要があり、そのためには凡そ300年ほどのつもりである」と応えている。新島の相当な覚悟が窺える。

同志社英学校が開学5年目、校長が布教活動で留守の時、学校の経営方針を巡って学生ストライキ事件が勃発した。この解決に苦慮した新島校長が起こしたのが、「自責の杖事件」である。この事件の背景や経過を取り上げ、学生ストライキという異常事態に自身を罰するという方法で、新島校長は平民主義、民主主義に徹して対応したこと等が脚注で示された。新島42歳、2度目の海外旅行を、脱国の航路と共に世界地図に表わした（55頁、下段）。

新島は1888年、京都の名士を招き、知恩院で大学設置の支持と理解を求めた。その後徳富猪一郎の協力の下「同志社大学設置の趣意」を表わし、「国民之友」他全国の新聞に発表、同志社教育の目的は「一国の良心」とも言うべき人たちの育成と述べた。病状の悪化の中に新島は募金を続けたが、1889年、前橋で倒れ、療養先の神奈川で八重たちに見とられ永眠した（1890年1月23日）。1920年大学令により、正式に「同志社大学」となった。

このように第三話は完成した。文字数は2500字（50字

×50行)とさし絵(相国寺門前の同志社英学校校舎の風景写真)一枚であり、併せて、2700字以内の文字構成(3頁)であった。また、脚注は3750字(50字×75行)と本文より1250字も多い。これは本文の内容をよりよく理解するためには補足的、追加の情報が特に必要と考えたためである。かくして第三話の脚注は他の脚注と比べ特段に多くなった。注釈は三話まとめ、一括して示したので、併せて7150字、8頁(50字×143行)であった。

この後に、授業担当者、教師のための、補足資料1(良心教育がめざす生き方について)を載せた。それは、荒木(2023)より引用したもので、①キリスト教主義と良心、②一国の良心、③自治自立、④在野精神、⑤地の塩、世の光、⑥諸君よ、人一人は大切なり、一人は大切なり、注釈、良心碑「良心を全身に充滿したる丈夫の起り来たらんことを(写真)」とその解説である(5頁(4500字、50字×90行))。更に参考2として、新島襄を支えた人々の相関図(脱国を支えた人々、法を犯し脱国した人々、勝海舟、山本覚馬めぐって)を示し、新島の理解を助けた。

かくして、開発した道徳教材、「新島襄物語り—米国に密航し、同志社大学を作った青年、新島襄(荒木紀幸、作²¹)」は、物語の第一話；脱国する—鎖国時代、命がけで憧れの自由、文明、キリスト教の国、アメリカに脱出を試みた若者の話です、第二話；アメリカ時代—青年はハーディー夫妻に出会い、支援を受け、清教徒の町、アンドーバーで高校、大学、神学校で学び、卒業しました、第三話；日本に帰国して—青年は京都にキリスト教主義の同志社英学校、後の同志社大学の礎を作りました、の三部構成でできている。

「私たちの道徳」では、歴史人物の時代背景が描かれることが余りないので、読み取りが難しい構成になっていると歌川と鈴木は批判する(2016)。そこでこの「新島襄物語り」では、歴史的な背景や事実を忠実に辿りながら、新島襄が考え、感じた経験を描写するように心がけた。なお富田と山本(2015)の「新島襄物語」第一節、「新島襄とその時代」では、世界の動き、アメリカの状況、脱国の背景が丁寧に説明されている。是非参考に！また、一般に道徳教材は1時間単位を基本としている。しかし、ここではこの教材を物語の第一話、「日本を脱国するまで」、第二話、「アメリカ時代」と順次道徳学習を積み重ねて、最終の第三話、「帰国後、同志社英学校を作るまで」を道徳学習すると仮定して、全3時間の積み上げ方式の道徳授業を構想した。共同研究者堀田泰永、松尾廣文はそれぞれ独自の視点から、新島襄物語りによる積み上げ方式の道徳学習指導案、3時間分を作成するという、極めてユニークな試みに挑戦した。

この挑戦が終わってしばらく間を置いて、堀田、松尾の二人に、第一話、第二話、第三話はそれぞれ独立した話であり、1時間の道徳授業としても独自性や意義がある。3時間構想時とは別の新たな視点から授業構想ができなにかと相談し、共同研究者の堀田から1点、松尾から2

点の1時間構想の道徳学習指導案が提案された。こうして、同一教材で異なる学習指導案をいくつも用意するという研究の第2の目的が達せられた。

すでに述べたように、新島襄物語りは縦書きで、1頁50字×18行で表わし、脚注を設け、本文の理解を助けるエピソードや難解なことばの解説などが取り上げられた。また漢字にはふりがなを付け、読みやすくなるよう心がけた。さし絵(写真)を入れて中学生の理解を助け、学習意欲を高めたかったが、紙面の制約のため各話1枚程度とした。こうして『新島襄物語り』は表紙を含めて10枚(写真4枚)、注釈は8頁(地図1枚)。参考資料1(良心教育がめざす生き方について)は写真を含め5頁(50字×90行)、資料2(新島を支えた人々)の1頁であった。

かくして、これら三話は本文と脚注を含めて文章量、情報量が比較的多い。そこで道徳の授業が始まる前までに、生徒は自宅や休憩時間を活用し前もって資料を読んだ上で授業に臨むように事前指導の徹底をお願いする。

IV. 結果と考察

1. 道徳教材；新島襄物語り—「米国に密航し、同志社大学を作った青年、新島襄」について

物語の作成に当たって、荒木(2024)の「(2)新島襄と同志社大学設立」の文章、2050字(25字×82字)を手がかりにし、更に事実がつけ加えられ、また読み手のことを考慮して、より内容が具体的に分かりやすくなるように書き足された。また本文中では書き表せなかった事柄を、注釈を用意し、側面から理解を助けるようにした。例えば、本文中の難解なことば、国禁の書、水杯などの解説、特定人物、山本覚馬、山本八重などの時代背景や書き表せなかった歴史的事実(密航を助けたセーヴォリー船長がこのため解雇された)など、多数の事柄についての詳述がある。脚注は、第一話で7箇所、第二話で12箇所、第三話で13箇所の併せて32箇所に上る。

こうして完成した物語を見ると、たくさんの新事実や新島との人間関係、交友関係が新たに加わっている。例えば、「自責の杖」事件にまつわる学生のストライキや新島の苦悩などが、脚注を用いて詳しく取上げられた。

しかし、第三話の「帰国後、新島が同志社英学校を作るまで」の文章について、土台とした文章では触れられていた①札幌農学校を辞めたクラーク博士(恩師アーモスト大学化学の教授)訪問、②板垣退助が刺客に襲われ、大津港まで見舞う、③伝道のため兵庫県各地を巡る、④八重夫と会津若松を訪問、⑤同志社社訓4条制定、⑥アルプスに登る途中、呼吸困難になり、遺言書を書き、休養、⑦ロンドン経由でボストンに向い、ハーディー夫妻に迎えられ、⑧アーモスト大学学長宅に滞在、内村鑑三の訪問を受ける、など8点について、第三話では殆ど触れてない。それは、同志社英学校設立のため奔走した新島の姿をしっかりと示し、英学校の開学後の新島の教

育者としての姿を浮彫りにしたかったためである。

こうして、一話2500字、三話で7500字と当初に予定していた形で完成した。なお道徳教材「新島襄物語り」は縦書き表示である（本論文では、道徳教材「新島襄物語り」についても、縦書き（2段組）を採用した。本文で紹介した元の形式（縦書き1段組、23頁）を希望される方は、荒木紀幸（alucky0210@leto.eonet.ne.jp）までご連絡ください。このため最終頁は「新島襄物語り」（荒木紀幸作）の表紙となり、続いて、第一話、第二話、第三話の順序で遡って綴られる形である。

2. 道徳学習指導案について

この研究の目的の1つは、道徳教材「新島襄物語り」第一話、第二話、第三話を使った積み上げ方式の道徳授業を計画（この物語の中核に一貫して流れている道徳的価値に注目して、第一次、第二次、第三次の授業を計画する）ことである。

共同研究者の堀田泰永²は、「新島襄物語り」の中核で流れている一貫した道徳的価値に「希望と勇気、克己と強い意志」（A主として自分自身に関すること、（4）より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実に遂げることを）を同定した。また、共同研究者の松尾廣文³は、一貫した道徳的価値として、「向上心、個性尊重」（A主として自分自身に関すること、（3）自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること）、等を焦点化できると考えた。そこでこれらの基底で流れる道徳的価値を二人がそれぞれに取り上げ、3時間積み上げ方式の道徳授業を計画した。

堀田の場合は、「希望と勇気、克己と強い意志」は、「困難を乗り越える心」―「不安や誘惑に打ち勝つ心」―「目標の実現を支える柔軟でしなやかな態度」というように、話の展開に応じて取上げられ、積み上げ方式の授業として、完成している。松尾の場合には、「向上心、個性尊重」は、「充実した生き方の追求」と一貫してまとめられ、これに沿って、積み上げ方式の授業の指導計画が作られた。こうして、積み上げ方式の3時間構成の授業は、一時間目、二時間目、三時間目道徳学習指導案（堀田積み上げ方式道徳指導案、松尾積み上げ方式道徳指導案）として完成した。

これらの成果は、引用文献に続いて、具体的に道徳学習指導案として示した。これらの指導案は今後具体的に教育活動の一環として実践され、その効果が検討されなければならない。これらは今後の課題といえる。

また、この物語「第一話、第二話、第三話」は新島襄と襄を取り巻く様々な人との人間関係の中で起きた様々な事件や人間模様が描かれている。そこには異なる様々な道徳的な価値が含まれている。それらは1時間の道徳授業としても、独自性や意義を有している。そこで先に示した視点と異なる道徳的価値に注目して、共同研究者

の堀田が第一話（国際理解、国際貢献）を、松尾が第二話（自主自律、自由と責任）、第三話（真理の探究、創造）、各1時間の道徳学習指導案を作成している。そこでこれらの道徳教材や学習指導案を多くの中学生や高校生を対象に、多くの教育現場の先生方が授業実践されることを切に希望する。それとともに、ここに用意した指導案を参考に、授業者自らがこれら3つの物語り、それぞれについて、中学生（高校生）に考え、議論させたい道徳的問題を独自に取り上げて、それぞれが期待する授業展開を計画し、授業実践されることを私たちは強く願っている。堀田と松尾が用意した各道徳学習指導案を資料として、積み上げ方式の指導案の後ろに続けて示した。

（1）堀田泰永作成の道徳学習指導案

堀田泰永による3時間の積み上げ方式の道徳学習指導案は次のような内容の構成で作成された。

○第1時間目 1 主題名、困難を乗り越える心、

【内容項目 A（4）希望と勇気、克己と強い意志】

2 資料名、新島襄物語（一）脱出まで、 3 主題設定の理由、 4 本時のねらい、新島襄の脱国までの生き方を通して、目標を設定し、困難を乗り越え、実現しようとする態度を育てる。 5 本時の展開、学習指導案

○第2時間目 1 主題名、不安や誘惑に打ち勝つ心、

【内容項目 A（4）希望と勇気、克己と強い意志】

2 資料名、新島襄物語（二）アメリカ時代、 3 主題設定の理由、 4 本時のねらい、強い決意を持ちながらも、不安を感じたり誘いを断ったりしながら、目標に向けて学び続けた新島襄の生き方を通して、克己と強い意志を持ち、目標の実現に向けて努力し続けようとする態度を育てる。 5 本時の展開、学習指導案

○第3時間目 1 主題名、目標の実現を支える柔軟

でしなやかな態度、【内容項目 A（4）希望と勇気、克己と強い意志】 2 資料名、新島襄物語（三）日本に帰国して、 3 主題設定の理由、 4 本時のねらい、同志社英学校設立後の様々な困難の場を柔軟でしなやかな態度で乗り越え、同志社大学設立まで進んだ新島襄の生き方を通して、目標の実現に向けて努力し続けようとする態度を育てる。 5 本時の展開、学習指導案

（2）松尾廣文作成の道徳学習指導案

松尾廣文による3時間の積み上げ方式の道徳学習指導案も堀田と同様の構成で作られた。

○第1時間目 1 主題名、充実した生き方の追求、

【内容項目 A（3）向上心、個性の伸長】 2 資料名、新島襄物語り、（第一話）脱出まで、 3 主題設定の理由、 4 本時のねらい、新島襄の脱国までの苦悩を通して、困難を乗り越え、個性を活かし、未来を切り拓こうとする意欲を培わせる。 5 本時の展開、学

習指導案

○第2時間目 1 主題名, 充実した生き方の追求,

【内容項目 A (3) 向上心, 個性の伸長】 2 資料名, 新島襄物語り, (第二話) アメリカ時代, 3 主題設定の理由, 4 本時のねらい, 自己理解を深め, 自分の個性に気づき, 充実した人生を歩もうとする態度を養う. 5 本時の展開, 学習指導案

○第3時間目 1 主題名, 充実した生き方の追求,

【内容項目 A (3) 向上心, 個性の伸長】 2 資料名, 新島襄物語り, (第三話) 日本に帰国して, 3 主題設定の理由, 4 本時のねらい, 帰国後, 学校を創設した新島は, 様々な学生の考えを受け止め, 「自治・自立」の気質, そして「良心」の精神もった人を育成しようとする. 新島の教育観から, 人の個性やよさを尊重し, 共に人としての成長を果たすことの尊さに気づかせる. 5 本時の展開, 学習指導案

(3) 堀田泰永作成の「第一話」道徳学習指導案

第一話をういた1単位時間(50分)授業の授業指導案

1 主題名, 日本と世界の違いを見つめよう, 【内容項目 C (18) 国際理解, 国際貢献】 2 資料名, 新島襄物語り, (第一話) 脱出まで, 3 主題設定の理由, 4 本時のねらい, 新島襄のアメリカに対する思いを通して, 日本と諸外国との文化や価値観の違いを積極的に知り, 行動していこうとする意欲と態度を育てる. 5 本時の展開, 学習指導案

(4) 松尾廣文作成の「第二話」道徳学習指導案

第二話をういた1単位時間(50分)授業の授業指導案

1 主題名, 自主的に判断, 誠実に実行. 【内容項目 A (1) 自主, 自律, 自由と責任】 2 資料名, 新島襄物語り (第二話) アメリカ時代, 3 主題設定の理由, 4 本時のねらい, 自らの意志で考え, 判断し, 責任をもち, 誠実に実行する態度を養う. 5 本時の展開, 学習指導案

(5) 松尾廣文作成の「第三話」道徳学習指導案

第三話をういた1単位時間(50分)授業の授業指導案

1 主題名, 真理を探究し, 新しいものを生み出す, 【内容項目 A (5) 真理の探究, 創造】 2 資料名, 新島襄物語り, (第三話) 日本に帰国して, 3 主題設定の理由, 4 本時のねらい, 帰国後, 学校を創設した新島は, 様々な学生の考えを受け止め, 「自治・自立」の気質, そして「良心」の精神もった人を育成しようとする. 新島の教育観から, 人の個性やよさを尊重し, 共に人としての成長を果たすことの尊さに気づかせる. 5 本時の展開, 学習指導案

【引用・参考文献】

- 荒木紀幸 2023 「新島襄が考えた良心教育とコールバーグの道徳性発達段階」 道徳性発達研究 16(1) 46-60. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸・堀田泰永・榎澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 1・2年編 明治図書
- 荒木紀幸・堀田泰永・榎澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 3・4年編 明治図書
- 荒木紀幸・堀田泰永・榎澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 5・6年編, 明治図書
- 荒木紀幸・松尾廣文・荊木聡・榎澤実 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 中学校編 明治図書
- 荒木紀幸 2014 生き方モデルは指針となりうるか, 「授業力&学級統率力」No.35 8月号 12-14. 明治図書
- 梅花女子大学ホームページ 2023 大学事始編纂室
- 同志社校友会編 1967 「新島先生記念集」第4版 同志社校友会
- 同志社大学「現代語で読む新島襄」編集委員会 2000 現代語で読む新島襄 丸善
- 同志社大学ホームページ 2023 「同志社大学設立の旨意」, 「良心教育と教育理念」, 「キリスト教主義教育」, 「建学の精神と新島襄」, 「新島襄のこぼれ」, 「新島八重と同志社」など
- 学校法人 同志社 1997 「新島襄—その時代と生涯」同志社大学
- 枝澤康代 2021 〈研究ノート〉明治創設期の神戸女学院(神戸ホーム)と同志社女学校(京都ホーム) —アメリカン・ボード女性宣教師によるリベラル・アーツ教育 Asphodel 56巻 108-130頁. 同志社女子大学英語英文学会
- 布施田哲也 2012 「新島襄が初めて読んだ漢訳聖書抜粋『真理易知』について」 新島研究 (103), 48-65, 同志社社史資料センター 同志社大学
- 保阪正康 2012 八重と新島襄 毎日新聞社
- 三好 彰 2024 新島襄とジョセフ・ヒコに関する一考察 —快風丸とベルリン号との奇跡— 新島研究 第115号 49-60. 同志社社史資料センター
- 三好 彰 2024 新島研究 第115号 61-73. 同志社社史資料センター
- 本井康博 2012 特別寄稿 「同志社の完成は三百年」—新島襄と津田仙一— 同志社時報 133号 58-65.
- 本井康博 2017 特別寄稿 「同志社の完成は何年か—新島・海舟座談の謎を解く— 同志社時報 143号 64-71.
- 伊藤彌彦 2013 アメリカの新島襄 同志社 spirit week 春学期 2011年5月31日 レクチャー 今出川校地「講演」記録 2013年3月補講
- 伊藤彌彦 2014 新島襄と徳富蘇峰—蘇峰再評価の動きの中で— 同志社 spirit week レクチャー
- 井上勝也 2007 同志社の伝統を受け継いだ社会事業家—留岡弘吉・山室軍平, 中村遙の生き方— 同志社スピリット・ウィーク「講演」記録
- 井上勝也 2015 新島七五三太は何故国禁を犯して密航を企てた 新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム 「新島研究」 第106号 37-59. 同志社社史資料センター
- 井上勝也 2018 「新島襄の北欧教育視察 基調報告」 新島研究 第109号 3-12. 同志社社史資料センター

- 井上勝也 2021 エッセイ「私の理解する新島襄」 新島研究 第112号 53-63. 同志社社史資料センター
- 加賀裕郎 2015 「私学同志社の教育思想—自由主義・民主主義・キリスト教主義を中心に—」シンポジウム2 私学の思想史報告論文, 現代教育フォーラム 24巻 102-110. 教育思想史学会
- 木原活信 2003 福祉と福音—弱さの福士哲学第4回, 「諸君ヨ一人ハ大切ナリ, 新島襄の实践 月刊いのちのことば, 12月号 いのちのことば社
- 森永長壹一郎 2023 新島襄の英文書簡と山本覚馬と宣教師の出会い 「新島研究」 第114号 132-147. 同志社社史資料センター
- 新島八重 2021 永澤嘉巳男編集 新島八重子回想録復刻版 同志社社史資料センター編 同志社大学出版部
- 大越哲仁 2015 新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム 「新島襄の海外渡航と中濱万次郎」 「新島研究」 第106号 12-24. 同志社社史資料センター
- 大越哲仁 2022 シンポジウム—「同志社にとっての1876年」熊本バンドの同志社英学校への入学(1876年7月~9月) 「新島研究」 第113号 7-14. 同志社社史資料センター
- 小原克博 2024 同志社大学 講義「良心学」第2回「新島襄と良心—その生涯をたどる」 YouTube アップロード (2014. 4. 14)
- 佐野安仁 1988 元良勇次郎 同志社人物誌 (62) 同志社時報 第85号 86-91.
- 佐野安仁 1993 キリスト教主義から学ぶこと—新島襄の教育理念から 同志社時報 第95号 54-60.
- 高岸雅子・飯塚真理 2020 同志社建学の精神教育の盲点と海外から来た「ミニ新島襄達」: 日本語・日本文化研究センター「同志社を学ぼう~同志社建学の精神と新島襄の生涯」9年間の授業から考える 同志社大学 日本語・日本文化研究 第17号 113-145.
- 竹田敏彦 2021 16章 新島襄の「良心教育」に学ぶ 竹田敏彦 (監) グローバル化に対応した教職論 217-230. ナカニシヤ出版
- 田附俊一 2014 日本の体育小史—新島襄と同志社の関わり— 同志社健康スポーツ科学紀要 6, 72-80.
- 谷口義子 2013 「襄と八重 癒やした神戸, 同志社創立者は大河ヒロイン 有馬・垂水で療養, 休憩, 神戸女学院校地所有所有にも協力」神戸新聞 8月29日朝刊記事 (藤村有希子)
- 谷口義子 2013 おもしろ有馬学 新島襄・八重は有馬温泉のファンだった? KOBECOCO 11月号 兆楽亭講演会より
- 谷村鯛夢 (和典) 2019 「ジョン万次郎と新島襄」同志社ファン・レポート Ver.2-036(通巻267号) 同志社ファンを増やす会
- 富田正樹・山本真司 2015 「新島襄物語—良心に向う志」新教育出版社
- 歌川光一・鈴木翔 2016 登場人物に見る「私たちの道徳」の特徴—その活用方法及び留意点を視野に入れて— 名古屋女子大学紀要 63 (人・社) 185-194.
- ウイキペディア 2023 新島襄, 徳富蘇峰, 福士成豊, フィリップス・アカデミー, アマースト大学, 澤山保羅
- 湯浅康毅・内村公春・石川立 2016 鼎談:「熊本バンド」を語る レクチャー 同志社フェア in 熊本 記念講演会 55-65.
- 吉田曠二 2015 新島襄はなぜ, 函館から国禁を犯して海外に脱出したのか? —「ロビンソン・クルーソー」と新

- 島襄—新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム」 新島研究 第106号 26-36. 同志社社史資料センター
- Vagiken Web Sito 2024 新島襄と勝海舟 2013. 06. 16.
- 和田洋一 1986 「新島襄」5版(略新) 日本基督教団出版局

注

- 注1 1965年, 同志社大学文学部心理学卒業, 1967年同志社大大学院修士課程心理学専攻修了, 1968年3月同志社大学博士課程中退, 同年5月, 延岡ウラスラ学園短大講師, 1970年3月より宮崎大学教育学部助手, 講師, 助教授, 1981年兵庫教育大学大学院教育方法講座助教授, 教授, 附属中学校校長を歴任, 博士(心理学, 甲南女子大学, 主査梅本堯夫, 小学生の言語連想, 1992), 2004年神戸親和女子大学大学院教授, 2011年福山大学教授, 2014年3月退職. 現在, 日本道徳性発達実践学会理事長, 日本教育実践学会編集委員
- 注2 1982年, 同志社大学文学部英文学専攻. その後, 佛敎大学で小学校教員免許を取得後, 石川県内の小学校教諭となる. 1993年兵庫教育大学大学院修士課程(石川県大学院派遣教員)修了, 石川県教育センター, 石川県教育委員会事務局学校指導課, 羽咋市教育委員会勤務を経て, 県内3小学校で校長を務め, 2020年定年退職. その後, 再任用教諭として勤務し, 現在に至る. 日本道徳性発達実践学会前副理事長
- 注3 1980年, 二松學舎大學文学部国文学科卒, 東京都公立中学校教諭となる. 1992年兵庫教育大学大学院修士課程(東京都新教育大学院派遣教員)修了, 東京都公立中学校教諭の後, 都内公立3中学校の教頭, 副校長, 都内公立3中学校長及び再任用校長を歴任後, 2011年退職. その後, 大田区教育委員会指導課 ICT 教育担当, 筑波学院大学非常勤講師を経て, 2012年より日本女子大学人間社会学部教育学科特任教授, 現在に至る. 日本道徳性発達実践学会副理事長

謝辞

本論文で使用した新島襄関連の写真は, 新島襄—その時代と生涯, 学校法人同志社, 発行からの引用である. 集録番号は39, 40, 47, 126, 224, 324, 406である. 記してお礼申し上げます.

付記

第23回日本道徳性発達実践学会同志社大会, 道徳性発達研究会第40回記念大会が2024年8月31日~9月1日に同志社大学今出川キャンパスで予定されていたが, 台風10号接近のため, Web会議となった. 内山大会委員長の司会で, 荒木による記念講演, 「道徳教材, 「新島襄物語」の開発」(パワーポイント)が行われた. 続いてこの教材「米国に密航し, 同志社大学を作った青年, 新島襄」を用いた道徳学習指導案が堀田泰永と松尾廣文から複数提供があり, 同時に解説がなされた. この論文はこれらを編集したものである. この貴重な機会を用意して頂きました内山伊知郎同志社大学教授に厚くお礼申し上げます. なお, 1879年, 「何年位かければ同志社は完成するか」との勝海舟の問いに, 新島は「三百年ほどかかるつもりである」と応えている. この論文が発行されるのは2025年2月を予定している. この年は, 同志社開学から150年目の節目に当たる記念すべき年であり, 感慨深い.

（資料）道徳教材、「新島襄物語り」に関して、堀田泰永と松尾廣文が作成した道徳学習指導案

1. 道徳学習指導案 作成者 堀田泰永

【1時間目】

- 1 主題名 困難を乗り越える心 【内容項目 A（4）希望と勇気，克己と強い意志】
- 2 資料名 新島襄物語（第一話）脱出まで—鎖国時代，命がけで憧れの自由，文明，キリスト教の国，アメリカに脱出を試みた若者の話です（作 荒木 紀幸）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

高い目標とは、現状に甘んじず現実をよりよくしようとする気持ちから設定するものである。しかし、設定した目標の実現には様々な困難や失敗を経験することもある。逆境から立ち直り、目標に向かって努力し続けるには、困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や意志が求められる。

(2) 価値に関わる生徒の実態について

中学生になると勉強や部活動等で悩みを抱えている生徒も多い中、困難にぶつかったとき、失敗を恐れるあまり現実から目を背けてしまったり、一度失敗を経験したりすると、自信喪失して途中で諦めてしまう姿も見られる。本資料を通して、生徒が現在の自己を見つめ直し、誰もが経験する困難を、自分の力で乗り越えていこうとする意欲と態度を高めていきたい。

(3) 教材について

新島は国禁の「アメリカの歴史地理」を読み、アメリカでは大統領を選挙で決めることを知り、自由の国アメリカへ行ってみたいと思うようになる。その後、日本に尽くしたいという目標を胸に、富士卯之吉や船長セイヴォリーの助けを得て国禁である脱国へと進んでいく。一方、戦乱のない時代を長く続けることができたことを考えると、江戸幕府の政策にも一理ある。社会科で学習した江戸幕府の政策の意図を想起しながら、時代の転換期に、高い目標を設定し、命がけで困難を乗り越え、脱国を目指した新島の思いについて考え、新島から学べることを考えさせたい。

4 本時のねらい

新島襄の脱国までの生き方を通して、目標を設定し、困難を乗り越え、実現しようとする態度を育てる。

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	1 江戸幕府の政治の特色について考える。	○江戸幕府が戦乱のない時代を長く続けることができたのは、どんな政治をしたからだろう。 ・大名統制 ・鎖国 ・身分制度	・社会科の学習を想起させる。
展開 (10)	2 教材を読んで考えを深める。 ○14歳のところまで範読し、青年期の新島の夢について考える。	○下級武士の家に生まれた新島はどんな夢を持って学問を学んでいたのだろう。 ・新しいことを学びたい。 ・学問を学んで出世したい。	・下級武士の生活の様子を画像で提示し、生活の苦しさを確認する。
	○17歳から20歳、「アメリカの歴史地理」を読むところまで範読し、国禁の書物を読んでいた新島の思いについて考える。	○江戸幕府はなぜ「アメリカの歴史地理」を国禁にしていたのだろう。 ・アメリカの姿を知られては困る。 ・江戸幕府の体制が揺らぐ。 ○新島は、国禁の「アメリカの歴史地理」を読んでどんなことを思っただろう。 ・江戸幕府はおかしい。	・国禁の意味を確認するとともに、江戸幕府存続の根幹の1つであることを確認する。 ・国禁を侵してまでも読んでいた新島の夢や思いについて考えさせる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカへ行ってみたい. ・アメリカの政治を学んで日本を変えたい. 			
(20)	○最後まで範読し, 良心の声を聞き, 「脱国」の意思を固めた新島の思いについて考える.	<p>○もし脱国者を罰しないと, 江戸幕府にとってどのような不都合があるだろう.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この後も脱国者がどんどん出てくる. ・江戸幕府をゆるがすことになる. <p>○脱国により, 新島本人にどんな罰が考えられるだろう. また, 手助けした福士卯之吉や船長セイヴォリー, そして家族はどうだろう.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はりつけ ・手助けした者や家族も同罪. <p>○それでも「脱国」の決意をし, 実行していった新島に賛成ですか. 反対ですか. その理由は?</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> <p>賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を変えるため ・自分の夢のため ・真実のため </td> <td style="width: 50%;"> <p>反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命がかかっている ・家族や助けてくれた人にも迷惑がかかる ・法律を破ることになる </td> </tr> </table> <p>◎危険をかえりみず「脱国」した新島の高まった目標は何か.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカで学び, 日本を自由の国にしたい. ・日本に尽くしたい. 	<p>賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を変えるため ・自分の夢のため ・真実のため 	<p>反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命がかかっている ・家族や助けてくれた人にも迷惑がかかる ・法律を破ることになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・脱国が江戸幕府にとってどのような不都合があるのかを考えさせる. ・新島の脱国による影響を考えさせる. ・様々な困難があるにも関わらず脱国を決意した新島の行動に対する判断を問うことで, 新島の思いに自我関与させる. ・アメリカで学び, 日本に尽くしたいという新島の高まった目標に気づかせる.
<p>賛成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を変えるため ・自分の夢のため ・真実のため 	<p>反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命がかかっている ・家族や助けてくれた人にも迷惑がかかる ・法律を破ることになる 				
終末 (5)	3 新島から学べることは何か考える.	○皆さんにも目標があり, その達成に向けて様々な困難があると思います. それに対して新島から学べることを書きましょう.	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに次のことを書く. ・目標 ・それに伴う困難 ・それを乗り越えるために新島から学べることは何か. 		

【2時間目】

- 1 主題名** 不安や誘惑に打ち勝つ心 【内容項目 A (4) 希望と勇気, 克己と強い意志】
- 2 資料名** 新島襄物語 (第二話) アメリカ時代—青年はハーディ夫妻に出会い, 支援を受け, 清教徒の町アンドーバーで高校, 大学, 神学校で学び, 卒業しました (作 荒木 紀幸)
- 3 主題設定の理由**

(1) ねらいとする道徳的価値について

目標を設定し, その実現に向けて決意を持って取り組み始めても, 不安な気持ちになったり, 自己の内面にある気まぐれや無計画, 怠け心や誘惑などにより, 努力し続けることを怠ったり, やめてしまうこともしばしば見られる. 着実にやり遂げるためには, 自分自身の弱さに打ち勝ち, 一つの目標に向けて, 計画的に実行していくことが必要である.

(2) 価値に関わる生徒の実態について

中学生時代は, 大きな目標を立てるものの, 理想どおりにいかない現実に悩み苦しむ生徒も少なくない. 不安

や誘惑から逃れることができず物事を諦めてしまったり、挫折や失敗を悪いことのように捉え、挫折や失敗を見せないようにしたり、それらを回避しようとして安易な選択をしてしまったりすることもある。本資料を通して、誰もが経験する不安や誘惑に打ち勝ち、強い心で努力し続けようとする意欲と態度を高めていきたい。

(3) 教材について

武士の命とされる鬘を切り落とすほどの決意を持って到着したアメリカであったが、新島は、港に一人取り残されたときに先の見通しの立たない不安を感じる。そんな中、ハーディ夫妻の支援を受け、アンドーバーで学び始めた。二十九歳の時、田中不二麿から「帰国して国政をいっしょにやろう。」と懇願される。新島の「日本のために尽くしたい。」「日本を自由の国にしたい。」という目標から考えれば、これは実現に向けての一つの方法であり、チャンスであったのかもしれないが、新島はこれを断る。このように不安や誘いがあってもそれに打ち勝ち、学び続けた新島が心に抱き続けた思いについて考えさせたい。

4 ねらい

強い決意を持ちながらも、不安を感じたり誘いを断ったりしながら、目標に向けて学び続けた新島襄の生き方を通して、克己と強い意志を持ち、目標の実現に向けて努力し続けようとする態度を育てる。

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	1 「克己」という言葉について調べる。	○「克己」という言葉を調べよう。 ・自分の欲望や邪念にうちかつこと。	・タブレットで各自調べる。 ・「克己」を板書する。
展開 (20)	2 教材を読んで考えを深める。 ○教材を教師が範読する。 ○新島の決意と不安にゆれる心中について考える。	○上海で武士の命とされる鬘を切り落とした新島の思い（決意）は？ ・これからの試練に立ち向かわなければ。 ・よく考えて行動しないといけない。 ・日本を良くするために何としてでもがんばらないといけない。 ○あれだけ目標や決意を持っていたはずの新島がボストンに着き、一人取り残された時、なぜ不安になったのか。 ・初めてのアメリカで一人になったから。 ・助けてくれる人がいないと知ったから。 ・目標の実現に向けて自信がなくなったから。	・教材に書かれている「試練に立ち向かう」「よく考えて行動する」のは、何のためなのか、新島の決意の表れに気づかせる。 ・目標を持ち、決意を持ってやってきたアメリカであるが、それでも不安になる新島の気持ちに気づかせる。
(20)	○田中不二麿から「帰国して国政をいっしょにやろう。」という誘いを断った新島の思いについて考える。	○田中不二麿について調べよう。 ・明治期の日本の政治家 ・教育行政家 ○もし田中の誘いにのっていたら、新島の未来はどうなっていたらろう。 ・政治家になっていた。 ・有力者になっていた。 ○この誘いは新島の人生にとってチャンスではないのか。 ・チャンスである。 ・田中という協力者もいる。 ○政治家になれば新島の目標である「日本のために尽くす」ことにつながるのではないか。 ・目標の実現につながる。	・タブレットで各自調べる。 ・政治家であり、教育行政家である田中不二麿に認められ、日本で政治をすることは、新島の人生にとっても目標の実現にとっても有益である。ここでは、そんなチャンス断ってまで目指した新島の思いについて考える。

		<ul style="list-style-type: none"> ・日本を変えることができるかもしれない。 <p>◎田中の誘いを断った新島の心の奥底にある思いは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を自由の国にしたい。 ・大学を設立する。 ・大学で日本を発展させる人材を育て、日本を変えていきたい。 ・政府でなく、民間の力で成し遂げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本を自由の国にすることと大学設立がどう関連するのか考える。 ・大学設立＝人材育成であることに気づかせたい。
終末 (5)	3 新島から学べることは何か考える。	○決意や不安に揺れ、誘いも断りながら10年間アメリカで学び、「克己」の心を持って目標の実現について考え続けた新島から学べることを書きましょう。	☆ワークシートに次のことを書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・新島から学べることは何か。 ・今の自分にどう取り入れるか。

【3時間目】

- 1 **主題名** 目標の実現を支える柔軟でしなやかな態度 【内容項目 A (4) 希望と勇気, 克己と強い意志】
- 2 **資料名** 新島襄物語 (第三話) 日本に帰国して一青年は京都にキリスト教主義の同志社英学校, 後の同志社大学の礎を作りました (作 荒木 紀幸)
- 3 **主題設定の理由**

(1) ねらいとする道徳的価値について

より高い目標を立て、努力して物事をやり抜くためには、様々な困難を乗り越えなくてはならず、困難や失敗を受け止めて希望と勇気を失わない前向きな姿勢や、失敗にとらわれない柔軟でしなやかな思考が求められる。ここでの柔軟な思考とは、困難や失敗を恐れずに取り組み続ける意志もそうであるが、時には、他者の意見を聞き入れたり、意見の違いや立場の違いを尊重することも重要となる。このような柔軟性は、社会で生活するうえではとても重要な能力であり、目標達成に努力し続けている時だからこそ身に着けたい力である。

(2) 価値に関わる生徒の実態について

中学生は、日々の生活の中で、勉強や部活動等で目標を持っている。このような生活の中での具体的な目標の実現に向けて努力する過程では、目標の達成には何が必要かを考えたり、自らの歩みを自己評価させたりすることが大切となる。その中で、考えなおしたり他者の意見を取り入れたりし、取り組み方法を強化したり、修正したりしながら努力し続ける、柔軟でしなやかな思考が重要となる。

(3) 教材について

日本へ戻った新島は1875年に京都で同志社英学校を設立する。その後、熊本洋学校で学んだ学問的水準の高い生徒(肥後もっこす)が入学する。この生徒たちは以前からいた生徒を軽蔑し、新島校長についてもなめてかかる態度であったが、新島は、将来「天下の人物」に育ててほしいと考え、これを抑圧することはなかった。また、1880年、授業方法をめぐって学生がストを起こした際、学生や教師を処分するのではなく自分の責任であると考え、校長自らを処分した「自責の杖事件」が起こる。ここでは、新島がこのような様々な困難に遭遇した際に発揮した、目標の実現に向け、柔軟に考え、しなやかに決断する態度について考えさせたい。その後新島は、1888年、良心教育に基づく人間の育成をめざした「同志社大学設置の旨意」を発表する。新島は1890年永眠し、正式に同志社大学となったのは大学令が出された1920年である。

4 ねらい

同志社英学校設立後の様々な困難の場面で柔軟でしなやかな態度で乗り越え、同志社大学設立まで進んだ新島襄の生き方を通して、目標の実現に向けて努力し続けようとする態度を育てる。

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	1 新島の大学設立への思いを確認する。	○新島はどのような思いで大学を設立しようと思ったのか。 ・大学で日本を発展させる人材を育て、日本を変えていきたい。 ・人材育成が重要である。	・大学設立＝人材育成であることを確認する。
展開 (10)	2 教材を読んで考えを深める ○「肥後もっこす」に対する新島の思いについて考える。	○新島は「肥後もっこす」を抑圧しなかったのはどんな思いからだろう。 ・優秀で独立心があるから。 ・将来天下の人物に育ててほしい。 ・この人物たちが将来日本を変える原動力に育ててほしい。 ・大学ではこのような人物を大切に育てていかななくてはならない。	・生徒は教材を事前学習で読んでおく。 ・同志社に以前からいる生徒を軽蔑し、新島校長にもなめてかかる「肥後もっこす」に対する新島の寛容さはどこからきているかについて大学設立の意図とつなげて考える。
(10)	○自責事件に対する新島の思いについて考える。	○なぜ学生の責任にするわけにはいかないのか。 ・将来、日本を自由の国にし、日本を変える原動力となる人物たちだから。 ○なぜ教師の責任にするわけにはいかないのか。 ・日本を変える若者を育てる人物たちだから。 ◎この二つに共通する新島の思いは何か。 ・日本を変える天下の人物を育てたい。 ・能力のある若者たちの芽を摘んではいけない。	・注④を各自黙読し、自責事件の内容を確認する。 ・自責の杖事件で、なぜ学生や教師の責任にするわけにはいかないと考えたのか大学設立への思いとつなげて考えさせる。 ・新島の柔軟でしなやかな思考に気づかせる。
(10)	○新島の目指した「良心教育」について考える。	○大学設置で目指した良心教育には新島のどんな願いがこめられていたのか。 ・良心を運用できる人物を育てたい。 ・教育があり、知識があり、品性が高い人物を育てたい。 ・自治自立の精神を育てたい。 ・在野精神を育てたい。 ・人の救済を行ったり、目立たないで人のためになったりするような人物を育てたい。	・参考「良心教育がめざす生き方について」を各自黙読する。 ・参考資料から感じた新島の思いを自由な言葉で話させる。
終末 (15)	3 新島から学べることは何か考える。	○脱国までは「希望と勇気」、アメリカでは「克己心」、帰国後は「柔軟でしなやかな態度」を持って目標の実現に向けて努力した新島。どの新島に心を動かされたか。 ○どの新島に心を動かされたか理由をつけて発表する。	☆ワークシートに次のことを書く。 ・どの新島に心を動かされたか。 ・それはなぜか。 ・今の自分に生かせることは何か。

2. 道徳学習指導案 作成者 松尾廣文

【1時間目】

- 1 **主題名** 充実した生き方の追求 【内容項目 A (3) 向上心, 個性の伸長】
 2 **資料名** 新島襄物語り (第一話) 脱出まで—鎖国時代, 命がけて憧れの自由, 文明, キリスト教の国, アメリカに脱出を試みた若者の話です (作 荒木 紀幸)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

今までの成長を振り返り, 現在を見つめ, 将来の自分の人としての生き方, 在り方を考えるとき, 向上心が起こる. 自己を見つめ, 向上心を持ち, 個性を活かした生き方を考えることが未来を切り拓き, 充実した生き方に繋がるのである.

(2) 価値に関わる生徒の実態について

少年時代に抱いた夢は, 成長とともに変化を遂げていく. これは, 自分の個性を理解し, それに沿った進路を考え始めるからである. このような成長に伴う自己の理解の反面, 毎日の生活の中で, 社会でのさまざまな困難や障害を見聞きして, 夢の実現の意欲を減少させてしまったり, 周囲と同調し, 個性の発揮を自己規制してしまうこともある.

自分の夢を実現するために努力することは, 自分の個性を伸長するとともに, 自己実現を達成する最大の機会である. この意義をしっかりと理解させ, 自己の可能性を信じて, あきらめることなく, 根気強く努力を続けることの大切さと, 自分を見失わない強さを身につけ, 自分の進路は自分で決定する態度を育てたい.

(3) 教材について

幕末, 下級武士の家に生まれた新島襄は, 勉学好きな自己の適性を活かし, 和漢のみならず, 西洋の学問も修めることを志す.

しかし, 鎖国政策下, 他国の書物閲覧は制限がある中で, 新島は, 国禁書である「アメリカの歴史地理」を読み, アメリカの政治体制, 教育制度に触れ, 自由とキリスト教の国に対する強い憧れを抱き, 渡航を夢見るようになり, 脱国を図るのであった.

封建時代の厳しい身分社会の中で, 志を果たそうと模索する青年新島の苦悩を通して, 自己の適性を活かした生き方を追い求める大切さを生徒に考えさせたい.

4 本時のねらい

新島襄の脱国までの苦悩を通して, 困難を乗り越え, 個性を活かし, 未来を切り拓こうとする意欲を培わせる.

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	1 江戸時代の鎖国政策について知っていることを発表する.	○江戸幕府が鎖国政策を行ったのは, どのような理由からだろうか. ・キリスト教義の浸透が国内の統一を乱すとの考えから. ・諸外国からの経済的, 政治的な侵略を警戒したから.	・社会科で学んだ鎖国政策の経緯, 意義を確認する.
展開 (10)	2 教材を読み, 以下の点を考える. ○16歳までの新島の生活から, どのような少年であったかを考える.	○新島襄は, どのような少年だったのでしょか. ・下級武士の家の子として周囲に気を遣っていた少年. ・自己の適性を活かし, 武道より学問で身を立てようと志した. ○上司に叱られても隠れて蘭学を勉強していたのはどのような気持からだろうか. ・これからの学問は, 和漢のみではなく, 西洋に目を向けることが必要と考えていた.	・貧しい生活ながら, 自分の才を活かそうと勉強に打ち込む新島襄の少年期を理解させる. ・社会の変化を予測する資質を持ち, 西洋への憧れを抱く少年であったことを考えさせる.

<p>(15)</p>	<p>○鎖国政策下での脱国の影響を考える。</p>	<p>○「海外への脱出を図れ」という良心の声に新島が従った場合、その成否は、その後の人生にどのような影響を与えると考えられるか。</p> <table border="1" data-bbox="552 320 1082 640"> <tr> <td data-bbox="552 320 807 640"> <p>成功した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱国者としての罪を負う。 ・憧れのアメリカで学問を修められる。 ・これからの日本の役に立つことができるかもしれない。 </td> <td data-bbox="807 320 1082 640"> <p>失敗した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪人として夢はおろか将来まで捨て去るようになる。 ・家族や助力してくれた知人たちにも多大な迷惑をかけるてしまう。 </td> </tr> </table>	<p>成功した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱国者としての罪を負う。 ・憧れのアメリカで学問を修められる。 ・これからの日本の役に立つことができるかもしれない。 	<p>失敗した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪人として夢はおろか将来まで捨て去るようになる。 ・家族や助力してくれた知人たちにも多大な迷惑をかけるてしまう。 	<p>・脱国の成否いずれにおいても新島の人生に困難が待ち受けていることを理解させ、そのリスクを背負った上での判断であったことを理解させる。</p>
<p>成功した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱国者としての罪を負う。 ・憧れのアメリカで学問を修められる。 ・これからの日本の役に立つことができるかもしれない。 	<p>失敗した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・罪人として夢はおろか将来まで捨て去るようになる。 ・家族や助力してくれた知人たちにも多大な迷惑をかけるてしまう。 				
<p>(15)</p>	<p>○20歳の新島が、禁止されている海外への渡航に抱く思いを考える。</p>	<p>◎撮影された写真に込められた新島の渡米に向けた決意、希望を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカの選挙制度や教育施策を知り、海外で勉強をしたいという思いに駆られていた。 ・キリスト教の教義に触れ、アメリカに憧憬の念を強くもっていた。 ・自己の適性を活かし志す学問を修めるために禁を破ってでも渡航を果たしたい。 	<p>・アメリカの制度、そしてキリスト教義を学びたいという抑え難い欲求が、禁を破ることになっても脱国へと青年新島を突き動かしたことを理解させる。</p>		
<p>終末 (5)</p>	<p>3 新島のように、自分の適性を考え、意志を貫こうとした経験を想起する。</p>	<p>○自分の個性を活かそうと、打ち込んでいることについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長年にわたり習い事（習字・ピアノ・バレエ等）を続けている。 ・部活での運動技術の向上に向け、日課を決めて努力を続けている。 ・得意な分野を伸ばそうと、コツコツと勉強を重ねている。 	<p>・ワークシートに書き込ませ、自分にも、自身の適性を見極め伸ばそうとする気持ちがあることに気づかせる。</p> <p>・発表を行わせ、認め合わせることを通して、個性を伸ばし、努力する意欲を大きく膨らませる。</p>		

【2時間目】

- 1 主題名 充実した生き方の追求 【内容項目 A (3) 向上心、個性の伸長】
- 2 資料名 新島襄物語り (第二話) アメリカ時代—青年はハーディ夫妻に出会い、支援を受け、清教徒の町アンドーバーで高校、大学、神学校で学び、卒業しました (作 荒木 紀幸)

3 主題設定の理由

- (1) ねらいとする道徳的価値について

自分のよさを見つけ、それを伸ばしていくには、自分自身を深く見つめることが重要である。そうした姿勢が、自分固有の持ち味を活かし、自分の志す理想の実現に向けた、充実した生き方につながる。
- (2) 価値に関わる生徒の実態について

将来のことを考え、理想に向かって努力をしようとする時期である。また、自分らしさを発見し、伸ばしていきたいと考える時期でもある。

しかし、理想はもっていても安易な方向に流れ、その実現に向けて努力をすることができなかつたりする傾向もある。

自己理解を深め、自分の理想とするものに気づき、よりよい生き方をするために向上しようとする態度を育てることは大切なことである。
- (3) 教材について

向学心に燃え、日本を脱出した新島であったが、航海中の船中で慣れぬ異国の習慣、言語に戸惑い、危うく抜刀することもあった。その戒めから、鬚を落とし、新たな自分へと生まれ変わろうとする。渡米後は、キリスト

教徒となり、官吏への道を歩まず、自己の生き方を貫こうとするのであった。

自分の理想を追い求め、独自の充実した生き方を追い求めようとする新島の態度を考えさせたい。

4 本時のねらい

自己理解を深め、自分の個性に気づき、充実した人生を歩もうとする態度を養う。

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	1 前時に考えた渡航に向けた新島の気持ちを思い出す。	○新島が「密航」を行うに至った気持ちはどんなものだったか。 ・自己の適性を活かし、志す学問を修めるために、禁を破ってでも渡航を果たしたい。	・前時に考えた脱国に至る青年新島のアメリカ、キリスト教への憧憬の念を思い出させる。
展開 (10)	2 教材を読んで考えを深める。 ○武士の旧弊を捨て、虚心に学ぼうとする新島の決意を理解する。	○上海に向かう航海中、新島は、どのような思いから鬩を切り落としたのだろうか。 ・一時の激情から、自分の志を忘れたかけた短慮を恥じたから。 ・武士としての矜持 ^{きやうじ} を捨て、一人の学徒として生きていこうとする決意から。 ・刀に頼るより、まず語学を習得しなければ、これからの生活を支えることはできないという思いから。	・旧態依然とした武士社会の悪弊を脱し、一学生として真摯な態度をもつことの大切さに気づいた新島の気持ちを理解させる。
(10)	○アメリカ行き船に乗り換えたときの新島の渡米に向けた決意について考える。	○上海でアメリカ行き船に乗り換えたときの新島の決意はどのようなものだったか。 ・使用人になり、航海の役に立つよう、一生懸命働きたい。 ・アメリカに着いたら、学校に入り、勉強をしたい。船中において、船の操縦や方位の見方を学びたい。	○アメリカでの勉強に寄せる新島の向学心を理解させ、一刻も時間を無駄に使わないように努力をしようとする新島の向学心を考えさせる。
(10)	○自分の進むべき道を追い求める新島の気持ちを考える。	○新島は、どのような思いで「ロビンソンクルーソー」を耽読 ^{たんどく} したのだろうか。 ・一人孤島に取り残されたロビンソンクルーソーの姿とただ一人脱国をし、見知らぬ異国へ向かう自分を重ね合わせていた。 ・孤島で神に祈るロビンソンクルーソーの姿から、孤独な自分もキリストに縋 ^{すが} りたいという思いが強くなった。	○キリストに帰依したいと願う新島の思いを考えさせ、渡米後、キリスト教徒として牧師を目指すようになったことを理解させる。
(10)	○時流に流されず、自分自身を活かす道を追い求めようとする新島の生き方を考えさせる。	○森有礼からアメリカでの教育費、養育費の援助の用意があることを知ったときの新島はどのような気持ちだったか。 ・国からの援助を受けると、国是 ^{こくぜ} に従わざるをえず、自分の望むキリスト教義を学ぶことができなくなってしまふ。 ○田中不二麿より帰国後、「国政」への参画を求められた際、それを断る新島の気持ちを考えよう。 ・官吏の道ではなく、一公民として自分の個性を活かした道を極めたい。	○何者にも拘束されることなく、キリスト教義を学ぼうとする新島の強い意志を考えさせる。 ○帰国後は、キリスト教義に基づく教育を行う学校を創立したいと願い、自分の個性を活かした生き方を追い求める新島の強い信念を理解させる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教義の理解を深め、帰国後は、それに基づく活動をしたい。 ・学校を設立し、教育実践を行いたいという理想に燃えた気持ち。 	
終末 (5)	3 自分らしさを貫いた体験を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分らしさを失わず、自分で考え、実行しようとした経験を話し合ってみよう。 ・部活の入部では、沢山の勧誘や周囲の意見を受けたが、自分の適性を考え、自分で判断し、活動をしている。 	○生徒の内面に、他に流されず、個性を伸ばし、自分らしさを貫く気持ちを大きく膨らませる。

【3時間目】

- 1 **主題名** 充実した生き方の追求 【内容項目 A (3) 向上心, 個性の伸長】
- 2 **資料名** 新島襄物語り (三) 日本に帰国して一青年は京都にキリスト教主義の同志社英学校, 後の同志社大学の礎を作りました (作 荒木 紀幸)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

自己の個性を発見し、それを活かし、向上を果たそうと努めることが、自分を輝かす充実した生き方につながるのである。

(2) 価値に関わる生徒の実態について

中学生は、自己理解も深まり、自分なりの生き方についての関心が高まってくるが、自分に自信が持てず、日々の生活に充実感を持ってない生徒も少なくない。

同志社大学創始者新島襄は、絶えず自分自身を見つめ、自己の個性を活かし、自分を高めようとする少年期の志を生涯貫いた人であった。

人間一人一人、姿・形が違うように、人それぞれには必ずその人固有のよさがある。その個性を発見し、それを伸ばすことは、人それぞれの生涯をかけての課題でもあり、充実した生き方につながることを考えさせたい。

(3) 教材について

渡米から10年後に帰国した新島襄は、理想とするキリスト教義に基づく大学設立に向け、活動を開始するのであった。

しかし、協力を求めた大阪府に外国人宣教師の採用にかかり、難色を示される等で計画は頓挫するのであった。そこで、新たに京都に学校用地を求め、同志社英学校を開学する。

そして、多様な考えをもつ学生の特質を活かそうと指導を行い、「一国の良心」を育成することを掲げ、同志社大学を設立するのであった。

自己の個性を活かしたいと志を立てた少年期の夢を生涯を通して実現してきた新島襄の姿から、自己の個性やよさを発見しそれを伸ばそうとする生き方の素晴らしさを生徒に考えさせたい。

4 本時のねらい

帰国後、学校を創設した新島は、様々な学生の考えを受け止め、「自治・自立」の気質、そして「良心」の精神もつた人を育成しようとする。新島の教育観から、人の個性やよさを尊重し、共に人としての成長を果たすことの尊さに気づかせる。

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	○前時までのお話から、青年新島は、どのような夢をもち渡米したか振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○青年期の新島襄は、自分の生き方をどのように考えていたか。 ・武道を捨て、自己の適性を活かし、学問を修めたいと考えていた。 ・禁を破ってでも、アメリカでキリスト教の教義を学ぶことに憧憬の念を強くもっていた。 	・第1時を思い出し、貧しい生活ながら、自分の才を活かそうと、アメリカへの脱国を果たした青年新島の志を確認させる。

展開 (15)	2 教材を読み、以下の点を考える。 ○同志社英学校を開校し、有為な人材の育成を図る新島教師としての使命を考える。	○熊本から転校してきた学生を型にはめようとしなかったことには、教育者としてどのような考えが新島にあったのかを考えよう。 ・威勢がよく、礼儀知らずで、粗野な部分もある熊本からの転校生たちではあったが、その個性を活かした生き方を身につけさせようとした。	・尊大な態度の熊本からの転校生たちへも型にはめることなく、個々のよさを発揮し、成長を期待する新島の教育愛を理解させる。⑥〔諸君よ、一人は大切なり、一人は大切なり〕参照
(10)	○自責事件における対応から、新島の教育観を考える。	○自責事件から、新島は、どのような気持ちで学生を指導していたことが分かるだろう。 ・新島には、学生個々の声を真摯に受け止める教育者としての誠実な姿勢があった。 ・学生個々の立場、考え、主張を尊重し、自己が全ての責を負う信条をもって、教育に当たっていた。	・新島の教育観に流れているものは、他者への傾聴と受容の心である。それは、脱国を図った若き自分と同様に、それぞれの学生の考えを最大限尊重し、その個性、よさを引き出そうとする教育観の表れであることに気づかせる。注④参照
(10)	○教育に生涯を捧げた新島の教えはどのように現在に受け継がれているか考える。 ○同志社大学の正門石碑にある言葉から、今に流れる新島襄の教えを考える。	○「同志社大学の設立の旨意」に描かれた新島の教育に対する理想を考えよう。 ・明治の初め、新たな国の黎明期にあつて、自治・自立の志を有した国民を養成したい。 ・「一国の良心」ともいふべきキリスト教義に基づく人を育てたいと考えた。 ○「良心を全身に充満したる丈夫の起こり来たらんことを」から窺える今に至る新島の教えとは何だろう。 ・世の趨勢、情勢によって変化することのない自己の内面にしっかりした価値尺度を持ち、良心に従って生きること。	・近代国家の黎明期、「自治・自立」の気質、そして「良心」の精神もった人の育成は、極めて重要であったことを考えさせる。①〔キリスト教主義と良心〕参照 ・良心という普遍的な真理を追究し、社会を切り拓く人を望む新島の願いを理解させる。〔注1 写真〕参照
終末 (10)	3 3部作の新島襄の人生から人としての生き方について考える。	○新島の生き方について話し合ってみよう。 ・個性を活かして、学問をもって自らの人生を輝かそうと努力をした。 ・学生の個性を尊重した教育者であった。 ・真理を追究しようと学問に打ち込み、困難に打ち克ちキリスト教義に基づいた教育を生涯をかけて行った。	・新島3部作の授業を通して考えたことを意見交流させ、人としてのどのように生きるかを考えさせる。

3. 道徳学習指導案 作成者 堀田泰永

1 主題名 日本と世界の違いを見つめよう 【内容項目 C (18) 国際理解, 国際貢献】

2 資料名 新島襄物語り (一) 脱出まで一鎖国時代, 命がけで憧れの自由, 文明, キリスト教の国, アメリカに脱出を試みた若者の話です (作 荒木 紀幸)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

私たちは、地球規模の相互依存関係の中で生きており、我が国が、国際的な関わりをもつことなく孤立して存

在することはできない。他国には日本と同じように、その国の伝統に裏打ちされたよさがあり、様々な文化や価値観を背景とする人々が生活している。そんな中で生じる自国と他国の違いを知り、それをみとめ相互に尊重し合いながら生きることが重要となる。今後ますますグローバルな相互依存関係の中で生きていく中学生にとって、広く世界に目を向け、国際社会で生きる能力を身につけることはこれまで以上に必要となる。

(2) 価値に関わる生徒の実態について

中学生になると、他教科等の学習とも相まって、世界の様々な国々に対しての興味・関心が高まり、諸外国についての多くの知識・情報を手に入れることもできるようになる。しかし日本と諸外国の違いを違いとして理解し、そこに現状の自分を重ね合わせて考える機会はありません。本資料を通して、生徒が日本と諸外国との文化や価値観の違いを積極的に知り、行動していこうとする意欲と態度を高めていきたい。

(3) 教材について

新島は蘭学や英学を学び、国禁の「アメリカの歴史地理」を読むことで、アメリカでは大統領を選挙で決めることや授業料のいらない学校があることを知る。そして幕府の政策に不満を募らせ、自由の国アメリカへ行って学び、日本のために尽くしたいと思うようになる。このような幕末の新島のアメリカへの思いについて考えながら、これから世界の中の日本人として、どのように世界と日本の違いを知り、行動しようと思うか考えさせたい。

4 本時のねらい

新島襄のアメリカに対する思いを通して、日本と諸外国との文化や価値観の違いを積極的に知り、行動していこうとする意欲と態度を育てる。

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点								
導入 (5)	1 日本から見た世界について考える。	○日本から世界の国々を見て違うところはどこだろう。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>日 本</td> <td>世 界</td> </tr> <tr> <td>家の中では靴を脱ぐ</td> <td>家の中で靴をはく</td> </tr> <tr> <td>車は左側通行</td> <td>車は右側通行</td> </tr> <tr> <td>平和</td> <td>戦争中の国もある</td> </tr> </table>	日 本	世 界	家の中では靴を脱ぐ	家の中で靴をはく	車は左側通行	車は右側通行	平和	戦争中の国もある	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界の中の日本」を大きく板書する ・日本と世界を対比して板書していく。
日 本	世 界										
家の中では靴を脱ぐ	家の中で靴をはく										
車は左側通行	車は右側通行										
平和	戦争中の国もある										
展開 (15)	2 教材を読んで考えを深める。 ○新島が感じた日本とアメリカの違いを考える。	○蘭学や英学を学び、国禁の「アメリカの歴史地理」を読んで新島が感じた日本とアメリカの違いは何か。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>日 本</td> <td>世界 (アメリカ)</td> </tr> <tr> <td>上位下達・封建社会</td> <td>自由, 平等</td> </tr> <tr> <td>武家は藩校, 庶民は寺子屋</td> <td>授業料のいらない学校</td> </tr> <tr> <td>将軍, 大名, 武士が力を持つ, 土農工商</td> <td>大統領を選挙で選ぶ</td> </tr> </table>	日 本	世界 (アメリカ)	上位下達・封建社会	自由, 平等	武家は藩校, 庶民は寺子屋	授業料のいらない学校	将軍, 大名, 武士が力を持つ, 土農工商	大統領を選挙で選ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・新島の感じた日本とアメリカの違いについて気づかせる。 ・国禁の本を読むことがどうということなのかも考えさせる。 ・導入に続き、日本と世界を対比して板書していく。
日 本	世界 (アメリカ)										
上位下達・封建社会	自由, 平等										
武家は藩校, 庶民は寺子屋	授業料のいらない学校										
将軍, 大名, 武士が力を持つ, 土農工商	大統領を選挙で選ぶ										
(10)	○この頃の日本について、どう感じるか話し合う。	○このような日本について、現代に生きる皆さんはどう感じますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自由がないので生きづらいと思う。 ・身分制度はよくないと思う。 ・一部の権力者だけが力を持っているのはよくない。 ・こんな時代だからしかたないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代と対比させて自由に発言させる。 								
(10)	○良心の声を聞いた新島のアメリカへの思いについて考える。	◎国禁の本まで読み、日本と世界の違いを知り始めた新島に、「この好機を逃すな、海外へ脱出を図れ」という良心の声を聞こえた時、どんな思いを抱いたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカへ行きたい。 ・アメリカの自由・平等について学びたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良心の声を聞いた世界(アメリカ)への新島の思いについて考えさせる。 ・アメリカで学び、日本をどうしたいと思ったのかについても考えさせる。 								

		<ul style="list-style-type: none"> ・日本のために尽くしたい。 ・日本を差別や身分制度のない国にしたい。 	
終末 (10)	3 新島の思いや行動を踏まえ、世界の中の日本人としてどのように考え、行動していくか考える。	<p>○新島は、蘭学や英学を学び、国禁の本を読むことで世界との違いを知り、アメリカへ行って学び、日本を変えたいと考えました。みなさんは次のことについてどう考えますか。</p> <p>①これから世界の中の日本人として、どのようにして世界と日本の違いを知ろうと思いますか。</p> <p>②違いを知った上で、世界の中の日本人として、どのように行動しようと思いますか。</p>	<p>☆最初に板書した「<u>世界の中の日本</u>」を意識させながら、ワークシートに次のことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界と日本の違いを知る方法 ・どのように行動しようと思うか。 ・発表し、交流する

4. 道徳学習指導案 作成者 松尾廣文

1 主題名 自主的に判断，誠実に実行。【内容項目 A（1）自主，自律，自由と責任】

2 資料名 新島襄物語り（二）アメリカ時代—青年はハーディ夫妻に出会い，支援を受け，清教徒の町アンダーバーで高校，大学，神学校で学び，卒業しました（作 荒木 紀幸）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

自由と責任には，他の人の言動に左右されることなく，自らの意志で考え，判断し，誠実に実行する態度が求められる。

(2) 価値に関わる生徒の実態について

人はよりよく生きていくために，周りに意見を求めながらも，自分の考えを持ち，主体的に判断を下して，その実行を果たすことが求められる。特に，責任のある仕事をするときには，判断に伴い，その結果に責任をもつことが必要となる。

中学生になると，生徒会や部活組織等，いろいろな取り組みの中で責任ある立場に身をおき，前向きに活動することが求められる。その他，どのように小さな行為でも，それを自分で考え，判断したものであるとの自覚があれば，結果に対して責任をもち，誠実に実行していくことで，自己の成長を実感することができる。

しかし，責任を回避するために，自らの判断を保留し，付和雷同の域を出ない傾向も強く，何事も他者任せに甘んじる生徒も多く見られる。

この時期によりよく生きるための課題を自分自身で考え，判断し，実行していこうとする態度を身につけさせることは極めて大切であると考え，本主題を設定した。

(3) 教材について

向学心に燃え，日本を脱出した新島は渡米後，ハーディ夫妻の援助を得て，フィリップスアカデミーを皮切りに，アマースト大学，アンダーバー神学校で学業を積む。そんな新島へ森有礼や田中不二磨という政府高官より，新政府への参画を勧められる。しかし，自己で判断し，官吏への道を断り，キリスト教の教義を修めようとする初志を貫くのであった。

自主的に判断し，自分の行いに責任をもち，実行する新島の誠実な生き方を考えさせたい。

4 本時のねらい

自らの意志で考え，判断し，責任をもち，誠実に実行する態度を養う。

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	1 渡航に向けた新島の気持ちを思い出す。	<p>○新島が「密航」を行うに至った気持ちはどんなものだったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の適性を活かし，志す学問，アメリカ教義を修めるため，国禁を破ってでも渡航を果 	鎖国下で脱国に至った青年新島のアメリカ，キリスト教への憧憬の念を思い出させる。

		たしたい.	
展開 (10)	2 教材を読んで考えを深める。 ○アメリカ行き船に乗り換えたときの新島の渡米に向けた決意について考える。	○上海でアメリカ行き船に乗り換えたときの新島の決意はどのようなものだったか。 ・使用人になり、航海の役に立つよう、一生懸命働きたい。 ・アメリカに着いたら、学校に入り、勉強をしたい。船中において、船の操縦や方位の見方を学びたい。	○アメリカでの勉強に寄せた新島の向学心を理解させ、一刻も時間を無駄に使わないように努力をしようとする新島の向学心を考えさせる。
(5)	○渡米の初志を忘れず、探究心に燃える新島の気持ちを考える。	○繰り返し「ロビンソンクルーソー」を耽読する新島の姿からは、どのような決意が読み取れるか。 ・孤島で神に祈るロビンソンクルーソーの姿から、孤独な自分もキリストに縋りたいという思いが強くなった。 ・孤島に取り残されても、信仰を忘れず、希望を持ち生き続けたロビンソンクルーソーの姿から、渡米の信念を忘れず、学問に励むことを神に誓った。	○キリスト教義を修めたいという初志を誠実に貫こうとする新島の強い思いを理解させる。
(10)	○アメリカでの学校生活から、新島の向学心の強さを考える。	○ハーディー夫妻の支援を受け、学業に打ち込む姿から新島のどのような気持ちがうかがえるか。 ・時間を惜しみ、短期間に多くの学習を積み重ねようと自分を戒めていた。 ・支援を惜しみなく続けてくれるハーディー夫妻に感謝をしながら、その期待に応えるべく、自己を律し、努力を課していた	○フィリップスアカデミー、アマーフト大学、アンドーバー神学校と短期間に学修を果たした新島の強い意志と実行力を理解させる。
(15)	○自らの意志で考え、判断し、誠実に実行する新島の生き方を考える。	○森有礼や田中不二麿の誘いを断った新島の気持ちを考えよう。 ・誘いに甘んじ、官費を受けてしまうと、自分の学びたいキリスト教義を習得することができなくなってしまう。 ・自分で判断し、国禁を犯してまでも渡米した初志を貫く生き方を追求したい。	○国是に従い、新政府で立身出世を果たそうという当時の多くの留学生の生き方とは異なり、初志を忘れずキリスト教義を学ぶ新島の強い意志を考えさせる。
終末 (5)	3 自分で考え、判断し、実行した体験を想起する。	○新島のように、自分で考え、判断し、責任をもって、やり抜いた経験を話し合ってみよう。 ・たくさんの生徒の意見の中から、委員会の活動方針について、委員長として判断し、まとめ上げ、組織全体で取り組むようにした。	○自分で判断し、誠実に実行しようとする気持ちを生徒の内面に大きく膨らませる。

5. 道徳学習指導案 作成者 松尾廣文作

1 主題名 真理を探究し、新しいものを生み出す 【内容項目 A (5) 真理の探究、創造】

2 資料名 新島襄物語り (三) 日本に帰国して一青年は京都にキリスト教主義の同志社英学校、後の同志社大学の礎を作りました (作 荒木 紀幸)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

信念をもち、真理を探究する姿勢が、よりよく生きたいと願う自分自身の未来を創るとともに、新たな創造を

生み出し、社会の進歩、発展に貢献することに繋がるのである。

(2) 価値に関わる生徒の実態について

中学生期は、目先の進路のみにこだわりがちである。しかし、その反面「生涯をかけて、悔いのない人生を送りたい」と願い、その生き方を真剣に考えようとする時期でもある。こうした時期に、偉業を成し遂げた人の足跡に触れると、素直に感動し、何かを学びとろうとする気持ちも高まるものである。

同志社大学創始者新島襄の生き方から、絶えず理想を求め、目標を持って努力すること、現実を正しく見つけ、自分の人生を自らの手で切り開く意欲と態度を育てたい。

(3) 教材について

渡米から10年後に帰国した新島襄は、理想とするキリスト教義に基づく大学設立に向け、活動を開始するのであった。しかし、協力を求めた大阪府に外国人宣教師の採用にかかり、難色を示される等で計画は頓挫するのであった。

そこで、新たに京都に学校用地を求め、同志社英学校を開学する。その後も苦難の時期を経て、「一国の良心」を育成することを目的とし、同志社大学を設立するのであった。

キリスト教義に基づく学校建設に燃え、様々な困難を乗り越える新島襄の姿から、理想を追い求め、新たな創造を生み出し、社会の進歩に貢献する大切さを生徒に考えさせたい。

4 本時のねらい

帰国後、困難に負けず大学の開設に奔走する新島襄の姿から真理を探究し、新しい社会を創造することの大切さを深く理解させる。

5 本時の展開

段階 (時間)	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	1 アメリカで新島襄が修めた学業について振り返る。	○アメリカで新島襄が打ち込んだ学問はどのようなものだっただろう。 ・英語を習得すると共に、神学校に入学し、キリスト教義を学んだ。	・帰国後の官吏登用の誘いを断り、キリスト教に生涯を捧げることを望む新島の決意を確認する。
展開 (15)	2 教材を読み、以下の点を考える。 ○同志社を結社し、学校開設に向け奔走する新島の志を理解する。 ○同志社英学校を開校し、有為な人材の育成を図る新島教師としての使命を考える。	○新島襄は、どのような理想を持ち、大阪、そして京都に赴き学校開設の運動を行ったのだろう。 ・アメリカで決意したキリスト教義に基づく学校を開校し、多くの若者に教育を施したい。 ・新しい国づくりには、英語を習得した、西洋に目を開いた人材の育成が必要である。 ○熊本から転校してきた学生の指導に当たる姿から、教育者としてのどのような考えが新島にあったのかを考えよう。 ・威勢がよく、礼儀知らずで、粗野な部分もある熊本からの転校生たちではあったが、型にはめてしまうのではなく、その地域特有の人間性を活かそうとした。	・アメリカ人宣教師の採用に難色を示す文部省や、異を唱える仏教界に対して、真理を追い求めるため、粘り強く志を貫こうとする青年新島の熱意を考えさせる。 ・無礼な振る舞いのある熊本からの転校生たちへも「天下の人物」への成長を期待する新島の教育愛を理解させる。⑥〔諸君よ、一人は大切なり、一人は大切なり〕参照
(10)	○勝海舟との邂逅を得て、難事業である大学設置に邁進する新島の姿から、理想の実現を希求する生き方の崇高さを考える。	○勝海舟との出会いで、新島は大学完成に関わる決心を勝に述べている。二人の会話から、勝と新島はどのような意味で合意をしたのかを考えよう。 ・宗教を土台とした学校の設定は、長い年月が必要である。それは、国作りも同様でともに長い困難な道程を有するものだ、という点で意見が一致した。	・勝との邂逅では、大事を果たすのは、容易なことではなく、生涯を経ても成し遂げることは能わないという覚悟をもって臨むことが肝要ということを新島は表明している。勝は、その覚悟に共鳴を得ている。注③参照

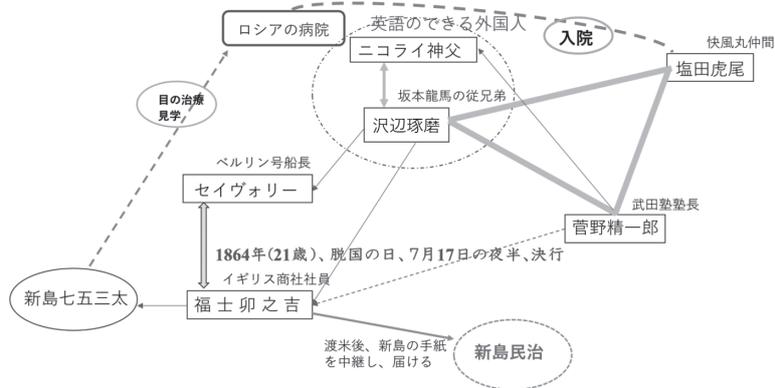
(10)	<p>○教育に生涯を捧げた新島の教えはどのように現在に受け継がれているか考える。</p> <p>○同志社大学の正門石碑にある言葉から，今に流れる新島襄の教えを考える。</p>	<p>○「同志社大学の設立の旨意」に描かれた新島の教育に対する理想を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治の初め，新たな国の黎明期にあつて，自治・自立の志を有した国民を養成したい。 ・「一国の良心」ともいうべきキリスト教義に基づく人を育てたいと考えた。 <p>○「良心を全身に充満したる丈夫の起こり来たらんことを」から窺える今に至る新島の教えとは何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世の趨勢，情勢によって変化することのない自己の内面にしっかりした価値尺度を持ち，良心に従って生きること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開国間もない国民には，「自治・自立」の気質，そして「良心」の精神基盤をもつことは，極めて重要であったことを考えさせる。①〔キリスト教主義と良心〕参照 ・注1にある写真に注目させ，良心という普遍的な真理を追究し，社会を切り拓く人を望む新島の願いを理解させる。
終末 (10)	<p>3 新島襄の人生から考えた人としての生き方について振り返ってみる。</p>	<p>○この授業から考えた新島の生き方について話し合ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個性を活かして，自らの人生を輝かそうと努力をした。 ・真理を追究しようと学問に打ち込み，困難に打ち克ちキリスト教義に基づいた大学を設立した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業を通して考えたことを意見交流させ，人としてのどのように生きるかを考えさせる。

【引用・参考文献】

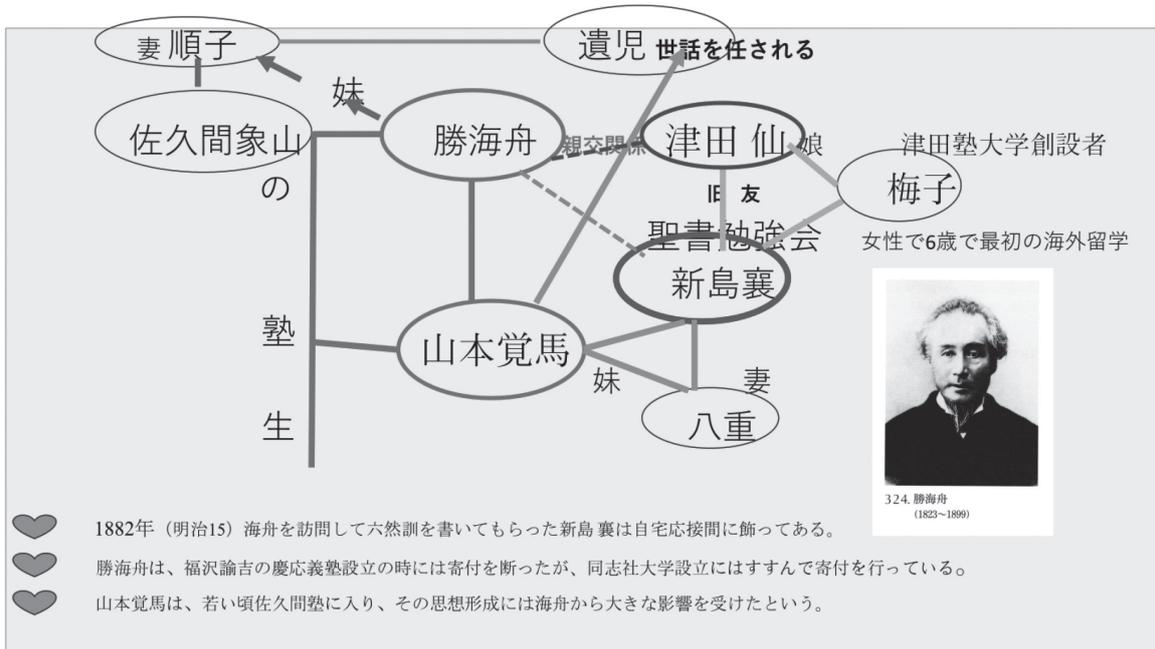
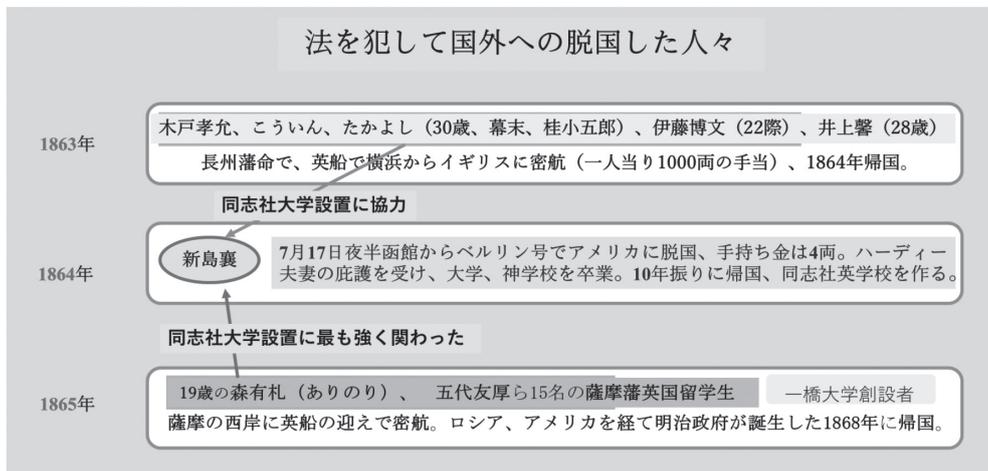
- 荒木紀幸 2023 「新島襄が考えた良心教育とコルバークの道徳性発達段階」 道徳性発達研究 16(1) 46-60. 日本道徳性発達実践学会
- 荒木紀幸・堀田泰永・桐澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 1・2年編 明治図書
- 荒木紀幸・堀田泰永・桐澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 3・4年編 明治図書
- 荒木紀幸・堀田泰永・桐澤実・松本朗 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 5・6年編 明治図書
- 荒木紀幸・松尾廣文・荊木聡・桐澤実 編 2015 考える道徳を創る「私たちの道徳」教科別ワークシート集 中学校編 明治図書
- 荒木紀幸 2014 生き方モデルは指針となりうるか、「授業力&学級統率力」No.35 8月号 12-14. 明治図書
- 梅花女子大学ホームページ 2023 大学事始編纂室
- 同志社校友会編 1967 「新島先生記念集」第4版 同志社校友会
- 同志社大学「現代語で読む新島襄」編集委員会 2000 現代語で読む新島襄(略現)丸善
- 同志社大学ホームページ 2023 「同志社大学設立の旨意」、「良心教育と教育理念」、「キリスト教主義教育」、「建学の精神と新島襄」、「新島襄のことば」、「新島八重と同志社」など
- 学校法人 同志社 1997 「新島襄—その時代と生涯—同志社大学
- 枝澤康代 2021 (研究ノート) 明治創設期の神戸女学院(神戸ホーム)と同志社女学校(京都ホーム)—アメリカン・ボード女性宣教師によるリベラル・アーツ教育
- Asphodel 56巻 108-130頁. 同志社女子大学英語英文学会
- 布施田哲也 2012 「新島襄が初めて読んだ漢訳聖書抜粋『真理易知』について」新島研究(103), 48-65. 同志社大学同志社史資料センター
- 保阪正康 2012 八重と新島襄 毎日新聞社
- 三好 彰 2024 新島研究 第115号 61-73. 同志社史資料センター
- 本井康博 2012 特別寄稿「同志社の完成は三百年—新島襄と津田仙—同志社時報 133号 58-65. 「精神と新島襄」、「新島襄のことば」、新島八重と同志社」など
- 本井康博 2017 特別寄稿「同志社の完成は何年か—新島・海舟座談の謎を解く」同志社時報 143号 64-71.
- 伊藤彌彦 2014 新島襄と徳富蘇峰—蘇峰再評価の動きの中で24-29. 同志社 spirit week レクチャー
- 井上勝也 2007 同志社の伝統を受け継いだ社会事業家—留岡弘吉・山室軍平. 中村遙の生き方 同志社スピリット・ウィーク「講演」記録
- 井上勝也 2015 新島七五三太は何故国禁を犯して密航を企てたか 新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム「新島研究」第106号 37-59. 同志社史資料センター
- 井上勝也 2018 「新島襄の北欧教育視察 基調報告」新島研究 第109号 3-12. 同志社史資料センター
- 井上勝也 2021 エッセイ「私の理解する新島襄」新島研究 第112号 53-63.
- 同志社史資料センター
- 加賀裕郎 2015 「私学同志社の教育思想—自由主義・平民主義・キリスト教主義を中心に—」シンポジウム2 私学の思想史報告論文、現代教育フォーラム24巻 102-110. 教育思想史学会
- 木原活信 2003 福祉と福音—弱さの富士哲学第4回、「諸君ヨ一人ハ大切ナリ、新島襄の実践 月刊いのちのことば、12月号 いのちのことば社
- 新島八重 2021 永澤嘉巳男編集 新島八重子回想録復刻版 同志社史資料センター編 同志社出版部
- 小原克博 2024 同志社大学 講義「良心学」第2回「新島襄と良心—その生涯をたどる」YouTube アップロード (2014.14)
- 佐野安仁 1988 元良勇次郎 同志社人物誌(62) 同志社時報 第85号 86-91.
- 佐野安仁 1993 キリスト教主義から学ぶこと—新島襄の教育理念から 同志社時報 第95号 54-60.
- 高岸雅子・飯塚真理 2020 同志社建学の精神教育の盲点と海外から来た「ミニ新島襄」—日本語・日本文化研究センター「同志社を学ぼう」同志社建学の精神と新島襄の生涯」9年間の授業から考える 同志社大学 日本語・日本文化研究 第17号 113-145.
- 竹田敏彦 2021 16章 新島襄の「良心教育」に学ぶ 竹田敏彦(監) グローバル化に対応した教職論 217-230. ナカニシヤ出版
- 田附俊一 2014 日本の体育小史—新島襄と同志社の関わり—同志社健康スポーツ学紀要 6, 72-80.
- 谷口義子 2013 「襄と八重 癒やした神戸、同志社創立者は大河ヒロイン 有馬・垂水で療養、休憩、神戸女学院校地所有にも協力」神戸新聞8月29日朝刊記事(藤村有希子)
- 谷口義子 2013 おもしろ有馬学 新島襄・八重は有馬温泉のファンだった? KOBECCO 11月号 兆楽亭講演会より
- 富田正樹・山本真司 2015 「新島襄物語—良心に向う志」新教育出版社
- 歌川光一・鈴木翔 2016 登場人物に見る「私たちの道徳」の特徴—その活用方法及び留意点を視野に入れて—名古屋女子大学紀要 63(人・社) 185-194.
- ウイキペディア 2023 新島襄、徳富蘇峰、沢田教馬、福士成豊、フィリップス・アカデミー、アマースト大学、澤山保羅、
- 湯浅康毅・内村公春・石川立 2016 鼎談「熊本バンド」を語る レクチャー 同志社フェア in 熊本 記念講演会 55-65.
- 吉田曠二 2015 新島襄はなぜ、函館から国禁を犯して海外に脱出したのか?—「ロビンソン・クルーソー」と新島襄 新島襄海外渡航150周年記念シンポジウム」新島研究 第106号 26-36. 同志社史資料センター
- 和田洋一 1986 「新島襄」5版(略新) 日本基督教団出版局
- 謝辞 本論文で使用した新島襄関連の写真は、新島襄—その時代と生涯、学校法人同志社、発行からの引用である。集録 番号は39、40、47、126、224、324、406である。記してお礼申し上げます

（参考）二 新島襄を支えた人々の相関図

函館で新島の脱国を助けた人々



法を犯して国外への脱国した人々



「私がもう一度教えることがあれば、クラスの中でもっともできない学生にとくに注意を払うつもりだ。それができれば、私は教師として成功できると確信する」

〔現代語で読む新島襄〕現代語で読む新島襄編集委員会、一七九頁、原文は英文。この新島の思想を受け継ぎ、その教え子であった留岡幸助（牧師）、山室軍平（伝道師）、中村遙（伝道師）らが、未だ福祉制度すら整っていない明治時代の封建社会や富国強兵の価値観で固まっていた社会に抗って、貧しさと飢えに苦しむ人たちが、非行少年たち、孤児たち、売春を強いられた少女たち、というような社会から忘れられ、国家ですら見捨てたような「小さい」人一人ひとりの救済に福音の灯を掲げて「地の塩」として近づいていった。これが、歴史家も認めるとおり、結果として近代の日本の社会福祉の基礎をつくっていったのである（木原、二〇〇三）。「あなたがたは地の塩である。あなたがたは世の光である」、目立たないで人のためになる灯台やロウソクの光のように、闇の夜に輝き、暗き道を照らして人びとを助け、導きなさい。これが同志社の伝統なのです。同志社から内閣総理大臣が出るのもいい、しかし世界で困っている人たちに手を差し伸べる「底辺に向かう志」をもった人びとがこの同志社からほとんど生まれることが、今、強く求められているのではないかと思います（井上、二〇〇七）。ここが上がった三人、留岡幸助、山室軍平、中村遙の生き方を象徴している聖書のことば、「地の塩」「世の光」はコールバーグの道徳性の発達段階で見ると、段階5の人権と社会福祉の道徳性の段階にあると推定できる。

⑥ 「諸君よ、人一人は大切なり、一人は大切なり」

「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」という、新町校地の建物の壁面に刻まれていることばは、新島襄が一八八五（明治一八）年に、同志社英学校創立十周年の記念式典の式辞の中で、「思わず」発したことばである。一八七四（明治七）年、十年ぶりに帰国した新島が一八九〇（明治二三）年、四六歳十一ヶ月の若さで亡くなるまでの十五年間の活動の根底には、彼の「人一人ハ大切ナリ」の精神が貫かれていた。彼に学んだ卒業生たちの回想をふりかえり、新島の「人一人ハ大切ナリ」の実践が学生の生き方に大きく影響したかを、同志社大学教授木原活信教授（二〇〇三）は、

「月刊いのちのことば、一二月号」に次のように紹介している。個儼不羈なる書生（粹にはまらない自由人）というのは才能が豊かで、個性が強く、独立心が旺盛で、普通の尺度では律し難い学生のことですが、教育者新島襄にとつては、やる気を失った学生も、クラスで一番出来の悪い学生も、個性が強くて粹からはみ出した学生も、一人ひとりを大切にすることを実践した。

新島はすべての人の人間としての権利や価値を平等に尊重することを身をもって示しているが、このような倫理的原則を学生たちが自分なりの道徳性（段階五）に発達させることを強く願っていたと言える。

海舟は、別邸洗池軒で最期を迎えました。戦後、跡地に私が最後に校長を務めた大森第六中学校が建っています。その場所は富士が見える高台にあり、日蓮聖人が足を濯いだと言われる洗足池も一望できるところです。勝は西郷隆盛と池上本門寺で会見する際、通りがかったその景色を愛でて、後日別荘を建てたということです。その土地購入の仲介をしたのが津田仙でした。勝とその妻民の墓は、六中の側にあり、毎週、六中生が掃除をしています（松尾廣文）。

て私たちはこの「一国の良心」ともいべき人たを養成したいと思う。私たちの目的は実にここにある（同志社大学設立の旨意、現代語で読む新島裏、二二四頁）。

同志社総長大谷實（二〇〇五）は、新島の良心教育について、「仰いで天に恥じず、伏して地に恥じない」公明正大な人間を、教育によって排出することである。その意味で、同志社の学生は、豊かな教養を身につけ、それに基づいて善悪の判断を的確にし、勇気をもって良心的行動に徹する努力をし、倫理・道徳に強い人になって欲しい。そうなることが、喜びにあふれる生活を導き、「一国の良心」となり、本当の意味での幸福につながる。

この「一国の良心」に求められているのは、コールバーグ理論に基づく、段階4に見られるように、問題の解決を「法律遵守、社会秩序の維持」に収束するのではなく、国を支えるために自分の考える倫理的原則に従って、民主的な手続きによる変革も辞さない強い心構えの考え、段階5を想定したものである。

③ 「自治自立」

京都府知事の榎村正直から「あなたは妻君を日本人から迎えるのか、外国人から迎えるのか」と聞かれて、「外国人は生活の程度が違うから、やはり日本夫人をめとりたいと思います。しかし亭主が、東を向けと命令すれば、三年でも東を向いている東洋風の婦人はご免です」と答えている。榎村は「実は女紅場への援助をたびたび求めに来る女性がいるのだが、彼女はどうかだろうか？」と、女性を紹介している（『新島八重子回想録』）。結婚に際して新島が望んだことは、外面の美しさでなく「心がよくて、教養のある人」である。八重を妻にしよと決めた出来事は、夏の日、裏が寛馬を訪ねていくと、中庭で井戸の上に板戸を敷き、その上に座って縫い物をしている八重の姿を見て結婚を決めたという逸話がある。養母ハーディーに宛てた手紙の中で八重のことを、「彼女は見た目は、ハンサムではありません。ただやるこゝとが非常にハンサムなのです。」と伝えている。新島の眼には八重の立ち振る舞に、彼が考え、実行してきた「自治自立」の精神を見たように思われる。

④ 「在野精神」

「在野」ということが耳に残ったまま卒業して今日に到っているが、改めて、その意味を辞書で調べた。

「公職に就かず民間人である」とあったが、それは正に新島の生き方を表わしたことばである。文部理事官の田中不二麿は二度に渡って、新島に官職に就くことを誘っているが、何れも断っている。一度目は、アメリカ東部とヨーロッパの教育視察を終えた後の一八七二年ベルリンの宿舎で、帰国して一緒に教育行政に当たることを懇願され、二度目が一八七五年田中が京都を訪れ、三日間新島を口説いているが、「君はキリストの奴隷だ」と言って席を立った（和田、一九七三）。森有礼（当時駐米公使）からの国費留学生にしたいとの申し出を受けたが、新島はこの申し出を断っている。その理由として日本の政府に束縛されるよりも、「むしろ自由な日本の一市民（a free Japanese）のままにいて、主の御業に私のすべてを捧げたいからだ」と述べている（加賀、二〇一五）。

このように、新島は政府に束縛されるよりも自由な一市民でありたい（自由主義）と考え、top-down方式の明治政府のやり方でない、キリスト教とデモクラシーを国造りの柱にするbottom-up方式によって、自治自立の国民が中核となって形成された国家をめざした。このために、新島は私立大学を「人民の手に拠って設立」することを考えた。当時大学とよばれるものは、官立の東京大学一校のみでした。これに抗して、全国の賛同する民間人の手によって、つまり自発的結社という新しい組織原理によって大学を創ろうとした。自発的結社といえは、「同志社」つまり「志を同じくする個人の約束による結社」という名前自体この理念を表わしている。

⑤ 「地の塩」、「世の光」

新島は徹底的にイエスの心を心として生きた人でした。高き志の実現に激しい情熱を燃やし、忍耐強く、誠実で他者を思う心が豊かでした。彼は生徒の価値可能性を信じ、個性を大切にし、クラスで一番出来の悪い生徒に特別の注意を払い、彼らを極みまで愛する教育者でした。このような人間・キリスト者・教育者新島の背中を見て当時の生徒たちは成長していった（井上、二〇〇七）。

集めて四月に出発し、歴訪地、イタリア、スイス、ドイツ等を経て九月にニューヨーク着。日本には翌年十二月帰国した。前頁下図は脱国の航路と二度目の航路である。

注④ 「同志社大学設立の旨意」は、新島が健康悪化のため、信頼する徳富猪一郎（蘇峰）に資料を送り、起草を依頼して完成したものである。

注⑤ 「国民之友」は、月刊誌で徳富蘇峰が主宰して、一八八七年に東京に設立された。

注⑥ 新島襄の臨終に立ち会った徳富蘇峰は、八重に「私は同志社以来、貴女に對してはまことに濟まなかつた。しかし新島先生が既に逝かれたからには、今後貴女を先生の形見として取り扱ひますから、貴女もその心持を以て、私につきあつて下さい」と述べ、八重が亡くなるまでその言葉通りに接し、相談に乗った。八重はその後日本赤十字の篤志看護婦らの地位向上に献身し、新島宗竹という名で茶人としても活躍。八六歳没。葬儀は徳富蘇峰の協力により「同志社社葬」として行われた。

（参考 一）良心教育がめざす生き方について、（荒木、二〇二三、より引用）

① 「キリスト教主義と良心」

新島は同志社の教育目的を、「同志社大学設立の旨意」の中で次のように述べている（一八八八、明治二年）。同志社設立のその目的はただ単に普通の英学を教えるだけでなく、徳性を磨き、品性を高尚にし、精神を正しく強めるように努め、ただ技術や才能のある人物を育成するだけでなく、一国の精神となり、元氣となり、柱石となる所の人々、いわゆる良心を手腕に運用する人物を（良心を全身に充滿したる丈夫）を生み出すことに努めてきた。しかしこのような教育は知育のみで決して達成できるものでない。神を信じ、真理を愛し、他者に対する思いやりの情に厚いキリスト教の道徳によって、初めて可能になる（知徳並行主義）と考え、キリスト教主義を徳育の基本とした。「キリスト教主義は実に我が青年の精神と品行とを陶冶する活力をもつ」と考えたからである。このように同志社教育の原点は「良

心」にある。これは「人間の目」ではなく、「神の目（至高の善）」を意識して初めて芽生えるもの（三水準六段階の道徳性の発達、脱慣習的水準、自律的・原則的水準）である。

【註釈】

注1 この「良心を全身に充滿したる丈夫の起り来たらん事を」は、新島襄が一八八九年一月に学生の横田安止に東京から宛てた手紙の一節で同志社大学正門の石碑に刻まれている。新島は自由教育とキリスト教主義の教育によって、日本の近代化に役立つ人物を育成するために同志社を創立した。当時政府は天皇・国家に忠良な臣民、高級官僚の育成をめざしていた。それに対して、新島は自己のうちに価値尺度を持ち、良心に従って生きる自治自立の人民を育成しようとした。この言葉は新島の人間観、教育観をよく表わしている。



② 「一国の良心」

この同志社大学からは政党に加入する者がでるかも知れない。あるいは農業、工業、商業に従事する者がでるかも知れない。あるいは宗教のために働く者がでるかも知れない。あるいは学者となる者もあろう。公務員となる者もあろう。「彼らによつて」達成されるものはさまざまなので、あえてあらかじめ定めることはできない。とはいうものの、これらの人たちは皆一国の精神となり、活力となり、柱石となるべき人々である。すなわちこうした人々たちを養成するのが、実に同志社大学を設立する目的なのである。一国を維持するのは、決して二、三の英雄の力ではない。実に一国を形成する、教育があり、知識があり、品性の高い人たちの力によらなければならない。これらの人々は「一国の良心」とも言うべき人々たちである。そし

期にアメリカの友人への手紙で「彼女の生き方はハンサムなのです。」と書いている。なお八重は結婚式の前日、デイヴィスから洗礼を受けて、結婚式に臨んだ。

注③⑤ 元北軍の軍人、ジョーンズの指導(授業は全て英語)を受けた学生がキリスト教に目覚め、一大騒動が起り、熊本藩の熊本洋学校が閉鎖され、卒業生と在校生のうち約四〇名がジョーンズの斡旋で同志社に、転・入学してきた。

このため急ぎ「予科(神学科、バイブルクラス)」を新設し、秀才達の受け皿とした。彼らは宣教師から『熊本バンド』と呼ばれた。卒業後牧師となつて各地に教会を建てた。思想家や同志社社長もいた。

注③⑥ 新島は優秀で元気者の『熊本バンド』の学生を「個儼不羈」と呼び、決して抑圧しなかつた。

注③⑦ 官許同志社英学校では心理学(心理学)の授業が行なわれており、この影響を受けた二期生の元良勇次郎は、留学してジョンズホプキンス大学のスタンレーホールに師事し、文科(東京帝国)大学の初代教授となり、一九八九年に心理学実験場を開設した。後輩の松本亦太郎は、東京帝大哲学科に進み、イエール大学、ライプツィヒ大学に留学し、一九〇六年に京都帝国大学の初代教授となり、心理学講座を開設した。なお元良に続いて入学した中島力造は後に元良と同じ文科大学の教授として倫理学講座を担当し、わが国の倫理学研究に先駆者として貢献した。また同期の上野栄三郎は新島に英語や数学を学び、新島の勧めで上京し、一八七八年(明治十一年)津田仙に招かれ仙の経営する学農社農学校で数学を、銀座簿記夜学校で簿記法を教え、実業家として多くの仕事をした。彼らは熊本バンドの「一団」と異なり、常に自修独学していた。

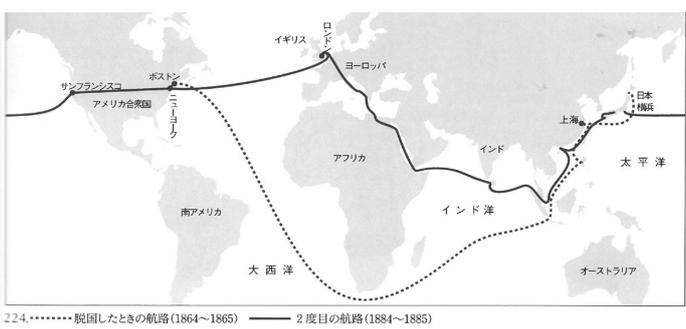
注③⑧ 勝海舟は山本覚馬と共に若い頃佐久間象山の塾で学んでおり、勝の妹順子が象山の妻という関係にあり、勝は象山の遺児の世話を覚馬に任ずるという関係にあった。覚馬の妹、八重の夫、襄が進める大学設置に対して、「あせるな急ぐな」といって、助言し、協力している。勝は、「日本を良くするには五百年くらいかかる。新島のようにあんなに急いでは命がもたぬ」と徳富蘇峰(本名猪一郎)に漏らしていた。

注③⑨ 新島は「Go, go, go in peace. Be strong ! Mysterious Hand guide you」と卒業生を祝した。

注④⑩ 同志社では学力の違いから年度途中の入学者を下級組、正規入学者を上級組とし、わけて授業をしていた。学校側がそれだと不経済だからと判断し、布教活動で新島校長が不在の時、年度途中から学生数が少なかった二年生の上級組と下級組を合併して授業することを決定した。この決定に納得のいかない二年上級組が反発してストに突入した。これを巡つてどのような処分を下すべきかで悩んだ新島は、不平組を呼び集め説得し、また黒幕の徳富猪一郎とも話をした。その後、先導組も入つて出された嘆願書は、下級の者を優遇して卒業の時期を早めるのであれば、上級の者にも予定より早く3年生に上げて欲しいという内容で、九名の署名の中には新島校長の義理の甥、津田仙の長男、徳富の弟健次郎があつた。思い悩んだ新島校長が下した判断は自身の処分、「自責の杖」事件である。全校礼拝の席で、

持っていた杖が折れるほど自分の手のひらを強打した。「今回の紛争は学生や教師の責任ではない。全ては校長たる自分の落ち度、責任である。よつて校長を罰する」。この新島の判断は平民主義、民主主義を反映している。しかし、黒幕の徳富猪一郎は、この混乱の責任を取り一月後の卒業を前に、新島の説得にも拘わらず退学した。徳富猪一郎は熊本バンドの一人、東京に出て師を探したが感觸なく、新島先生の名を聞き、京都の新島校長宅を訪れたのが十四歳、新島三四歳、それ以来、徳富猪一郎(後の蘇峰)は、新島襄を師と仰ぎ、敬愛の念は生涯変わらぬ、新島の手足となり、力となった。

注④⑪ 二度目の外遊は療養目的と大学設立募金



224.....脱出したときの航路(1864~1865) ———— 2度目の航路(1884~1885)

す、と答えた。アメリカ東部の視察について、報酬として、年二四八四ドル他に、日当五ドルが用意された。これは思いがけぬ大金で、新島は祖国の老父を喜ばそうと報酬の一ヶ月分に当たる二〇〇ドルを送金すると手紙を出している。当時の一ドルは日本円の一円と同じ値打ちで、現在の一四九〇円に当たる。

注⑲ 新島はベルリンの宿舍で、各国の教育事情に関する資料の整理と翻訳に精力を傾けた。この時の労苦をもとにして作成されたものが、一八七三年から七五年にかけて発行された文部省編『理事功程』である。これは、明治政府の教育制度に大きな影響を与えた。

注⑳ 五〇〇ドルの寄付集めで新島が最も感動したのは、帰りの汽車賃を含め二ドル全額を差し出した貧しい農夫や会場の外で待っていてそつと二ドルを手渡してくれた老夫人の献金だと、後日何度も語っている。

注㉑ 十月十九日、ハーディー夫妻、ノースロップ教授、イェール大学長ポーター教授がニューヘイブン駅まで見送りに、ハーディー夫人は餞別とは別に私的にと五十ドルを持たせてくれた(略現109頁)。

注㉒ 新島が上州安中(群馬県)に戻ってから四年後の一八七八年に安中教会が設立され、そこで三〇人が新島より洗礼を受けた。翌年海老名弾正(熊本バード)が初代牧師に就任、一九四七年には新島学園が開校した。

注㉓ 山本覚馬は、会津藩の砲術師範の家に生まれた。戊辰戦争に従事し薩長軍に捕らえられ、「朝敵」として薩摩藩邸に幽閉されたが、洋学所の開設の功などで、明治二年に幽閉が解かれた。この幽閉中に建白書『官見』を口述筆記し、薩摩藩主・島津忠義に上程したが、これは政治、経済、教育等二二項目にわたって将来の日本のあるべき姿を論じたもので、明治政府の政策の骨格ともつながっている。この後、京都府顧問、知事の横村正直の相談役となっていた異才の人物で、教育、産業、社会的道徳において多くの功績を残した。京都市内全域に小学校を設置したのも彼の功績の一つである。盲目の山本は宣教師のゴードンから漢訳の『天道遡源、アメリカ人、マーチン著』を贈られ、

音読してもらい、何度も聞き、「キリスト教に抱いていた疑問がすっかり解けた」と、自分で四、五冊を購入し、友人に配り、一読をすすめるほど熱心だった。

注㉔ 同じ年神戸の山本道(現在の神港学園の場所)に女学校(後の神戸女学院)が開校となったが、当時外国人による土地所有が認められなかったため、この学校の土地名義人はアメリカカンボードの宣教師、新島襄であった。また神戸の地、特に有馬へは八重を伴って新島襄はリュウマチや心臓病の治療に何度も訪れている。

注㉕ 山本八重は会津藩の砲術師範の家に生まれた。戊辰戦争では、断髪・男装して、スペンサー銃と刀を持って奮戦したが、敗戦後、覚馬を頼って上洛した。兄の推薦により京都女紅場(後の府立第一高女)の権舎長・教道試補となる。あるとき、新島が、京都府知事の横村正直から「あなたは妻君を日本人から迎えるのか、外国人から迎えるのか」と聞かれて、「外国人は生活の程度が違うから、やはり日本夫人をめとりたいと思います。しかし亭主が、東を向くと命令すれば、三年でも東を向いている東洋風の婦人はご免です」と答えている。横村は「実は女紅場への援助をたびたび求めに来る女性がいるのだが、彼女はどうかだろうか?」と、八重を紹介している(『新島八重子回想録』)。結婚に際して新島が望んだことは、外面の美しさでなく「心がよくて、教養のある人」である。八重を妻にしようと決めた出来事は、夏の日、襄が覚馬を訪ねていくと、中庭で井戸の上に板戸を敷き、その上に座って縫い物をしている八重の姿を見て結婚を決めたという逸話がある。養母ハーディーに宛てた手紙の中で八重のことを、「彼女は見た目は、ハンサムではありません。ただやることが非常にハンサムなのです。私が彼女について知っているのは、美しい行いをする人だということとです」と伝えている。新島の眼には八重の立ち振る舞いに、彼が考え、実行してきた「自治自立」の精神を見たように思われる。欧米流のレディファーストが身に付いていた襄と、男勝りの性格だった八重は似合いの夫婦であったという。しかし夫をかしげさせ、車にも夫より先に乗る姿を見た当時同志社の学生だった徳富猪一郎は彼女に鶴というあだ名をつけ、世間からは「悪妻」と評された。しかし夫婦仲はとても良く、夫の襄はこの時

注⑪ 幸い香港に戻った。日本の金で買えなかった中国語の新訳聖書を手に入れた

い。テイラー船長に、この小刀を八ドルで買ってくれないかと頼み、船長の許可を得て、中国人の本屋で新約聖書を買うことができた。一八六九年夏休み(二六歳)には船長宅で過ごしたが、十二月に船長がボストン港で事故死したことを聞き、新島は葬式に駆けつけている。なおベルリン号は207トンに対し、大型帆船、ワイルド・ローバー号は1100トンであった。

注⑫ セイヴォリー船長は新島の密航に協力し、函館から上海まで上船させた。しかし、そのことが会社知れ、その後クビになって、ボストンから50kmの海沿いの町、セーレムの郷里に戻っていた。セイヴォリーはボストンに新島を訪ねたとき、この事実を新島に話さなかった。

注⑬ ハーデー夫妻は新島から話を聞こうとするが、言葉が通じない。そこで、新島の経歴、日本密出国の動機、これから先どうしたいのかを文章にまとめるように言い、船員会館に泊め、新島は三日間かけて手記を書き上げた。「脱国の志」はたどたどしい英語で、「自分は遙かな海路もいとわずにアメリカにやってきました。学問について学業を収め、キリスト教を学び、国家の不振を心から憂い、自分は微力ですが、役立てようと国禁を破って、藩主や父母兄弟と別れ、思い切った異常な行動に走り、ひたすら天運に任せ、貴国アメリカに来ました(略現48頁)」という内容で、夫妻はいたく心を動かされた。幸いなことに資産家で名士のアルフェース・ハーデー氏は教育熱心でフィリッパス・アカデミー(自身は病気で中退)、アマースト大学・アンドーバー神学校の理事を務め、襄が大学、神学校と進むにつれ、自分が果たせなかった勉学や牧師となる夢を襄に託すようになった。

注⑭ アンドーバーの町にはフィリッパス・アカデミー、隣にアンドーバー神学校やアンドーバー教会があり、西にはキリスト教精神に満ち溢れたアマースト大学がある。新島は質素、清純、厳格な生活態度、デモクラシー、自由を肌で感じ、自分でも質素、清純、厳格に徹し、生涯酒を飲まなかった。自由主義、民主主義、主権在民を身に付け、トップダウン方式の明治政府のやり方

でなく、キリスト教とデモクラシーを国造りの柱とするボトムアップ方式により自治自立の国民の国家をめざしたいと考えるようになった(加賀、二〇一五)。

注⑮ フィリッパス・アカデミーは、超一流の全寮制の男子進学校として知られる。会衆派教会系の学校で、ピューリタン色が極めて濃厚であった。教育目標は『人生の偉大な目的と真の営み』を生徒に自覚させ、『真の敬虔、徳の増大』とを図ることにある。卒業生には道徳性発達段階説で世界的に著名な学者、コールバーグ博士(一九二七〜一九八七)、四一第一・四三第アメリカ合衆国大統領のジョージ・ブッシュ親子がいる。

注⑯ アーマスト大学は全米最高峰のリベラルアーツ・カレッジである。世界中から極めて優秀な学生を迎え、多様性を重視した教育実践を行っている。同志社大学では「アーマスト大学」と表記している。日本の外務省は、一九二〇年代より英語研修を命じた新人のキャリアや外交官を毎年留学させている。ノーベル賞受賞者や著名人が数多く輩出されている。新島はクラーク博士(札幌農学校初代教頭)から化学を習っている。博士が大学を去るときに発したことは、『少年よ大志を抱け、Boys, be ambitious』は有名である。

注⑰ 森有札は薩摩藩英国留学生として公費で一八六五年、五代友厚らとイギリスに密航。ロシアやアメリカを経て明治政府が誕生した一八六八年に帰国。一八七〇年、明治政府が海外に派遣した最初の外交使臣である。一八八五年第一次伊藤内閣では初代文部大臣に任命される。教育制度の確立に尽力。

注⑱ 桂小五郎を一八六五年に木戸孝允に改名(藩主より「木戸」を賜る)。一八六三年、藩命により長州藩の公費で伊藤博文、井上馨らと共にイギリスに密航。一八六四年帰国。ワシントンで二度ばかりゆっくり話し合う機会があり、それ以降親交を深めており、新島襄の大学設置を支援。

注⑲ 新島は岩倉使節団の一員、田中不二麿の秘書役(通訳・翻訳者)として行動を共にした。最初に辞令を交付されたが、これに対して新島は、日本政府から生活費を支給されている訳でなく、命令を受ける立場にない。しかし一定の報酬を与えられ、これこれをやって欲しいと望まれた場合には喜んでやりま

同志社には、彼ら元氣者の影に隠れて目立たないが、ユツユツ自学自修に励み、批判的に考え、何が正しいかを常に探求する人間、「自治自立」の学生も育つていた。一八七七年、三四歳、同志社女学校（後の同志社女子大学）開設。しかし、アメリカ女性宣教師二人の滞在認可が下りず、新島は外務卿の寺島宗則と交渉するが難航。森有礼の援助でかろうじて許可が下りた。

一八七九年、三六歳の二月、同志社大学設置の協力を得るべく上京した新島は、旧友津田仙を介して二人で勝海舟を訪問していた。海舟が「大学を作ることは大変な事業であるが、何年くらいかれば完成するつもりか」との問いに、「わが国には宗教を土台とする大学を設立する必要がある、そのためには凡そ三〇〇年ほどのつもりである」と応えた。勝は、「よし、それなら賛成してやる」と返した。一八七九年、六月十二日、英学校第一回卒業式挙行。全員が予科生（神学科）十五名（熊本バンド）。翌年、一八八〇年、四月十三日（三七歳）、自責の杖事件起こる。

一八八四年（四一歳）、二度目の海外旅行に出発（一八八五年帰国）。一八八六年（四三歳）、仙台に同志社分校の宮城英学校（翌年、東華学校と改称）を仮開校。四四歳、同志社病院開院式、京都看護婦学校開校式を行なう。

一八八八年、四五歳、四月に知恩院で京都の名士を招き大学設置について支持と理解を求めた。七月には、大隈重信邸で新島を支援する会が持たれ、渋沢栄一、岩崎弥太郎、原六郎等から大学設置の寄付があった。十一月には「同志社大学設立の旨意」を「国民之友」他全国の主要な雑誌、新聞に発表。国民の手で設立された私立大学は自治、自立の国民を養成する点で意義があり、「二国の良心」ともいふべき人々を育てることが目的である。このように同志社教育の原点は「良心」にあり、同志社では良心教育に基づく人間の育成をめざしている。

一八八九年（四六歳）、募金運動中に前橋で倒れ、静養先の神奈川県大磯の旅館で、八重たちに見とられながら一八九〇年一月二三日午後二時二十分永眠（四六歳十一ヶ月）。一月二七日同志社チャペル前広場に天幕を張り、葬儀を営み、東山若王寺山頂に葬る（墓碑銘は勝海舟筆）。同志社は多くの苦難を乗り越え、一九二〇年（大正九年）の大学令によって、正式に「同志社大学」となった。

注釈

注① 家長新島弁治の孫として誕生。父は民治、母はとみ。姉四人の下に生まれ。祖父は男の子の誕生を喜んで、「しめた！」と叫んだことで、七五三太と命名された。譜代大名家とは代々徳川家に使えてきた家臣をさす。

注② 国禁の書とは幕府が読むことを禁止した書籍をいう。例えば聖書やアメリカの歴史地理を読むと死罪となるという状況にあっても強い向学心から七五三太は杉田廉卿、吉田賢輔、津田仙らの聖書学習会に参加した。

注③ ハーディー夫妻に書いた手記で脳みそが頭からとろけ出すようになるほど驚嘆した（略現）とある。

注④ 海外脱出、密航は命懸けで捕まれば本人は死罪、後述（51頁）の沢辺琢磨、福士成豊、あるいは菅野精一郎、塩田虎尾たちも死罪を覚悟の協力であった。

注⑤ 水杯は二度と会えそうでない別れの時などに、酒の代わりに水を飲み交わした。

注⑥ 新島の五歳上の福士卯之吉はアメリカからの新島の手紙を江戸の父親に中継するなどその後も関わっている。なお当時の函館の様子を新島は、薬師山（箱館山）の麓にロシア、イギリス、アメリカ、フランスの館が立ち並び、太陽に照らされた白壁、風にひるがえる紅色が人の目を楽ませ、港には英国船三隻、アメリカ船二隻、日本船は快風丸を含め三隻、日本の商船四〜五十隻も停泊。外国の国旗が領事屋敷に並び非常にきれいといふ日記に表し、司祭二コライの紹介で塩田と訪れたロシアの病院で、新島は建物や診察室、治療室、病室、ベント数や食堂、薬の調合所等配置図を描き、また患者の服装、シーツや布団、食事内容、治療入院費無料などを詳しく書いている。日本の病院はいかに貧弱で金持ち向けかを訴え、ロシアの先を見越した政策に対してわが国は何故できないか、と強く批判していた（新略四一頁）。福士は一八六八年（二五歳）苗字帯刀を許され、名を成豊と改めた。イギリス人ブラキストンに機械、博物学を学び、北海道の測量や気象観測で指導的役割を果たした。注⑦ 福士は新島のために前もって小舟を借り、この日のために三度ほど波止場のあたりを予行演習していた。

(第三話) 日本に帰国して一青年は京都にキリスト教主義の同志社英学校、後の同志社大学の礎を作りました

一八七四年十一月、十年ぶりに新島は三二歳で帰国。二八日東京から人力車三台を貸し切つて出発、中仙道を通つて、食事のほかは休憩を取らずに二十時間かけ深夜に群馬県安中に到着。翌日、両親や姉たちと再会。約一月の間、寝食を共にした。アメリカで勉強していた人物の顔を一目見ようと、異国の珍しい話を聞こうと、遠方から訪ねてくる客も後を絶たず、新島も求めに応じて西洋の文明や教育事情、キリスト教について話した。小学校やお寺でも話をしたが、新島への異常な関心に役人は中央に伺いを立てたが、新島なら心配無用の返事でおとがめはなかつた。

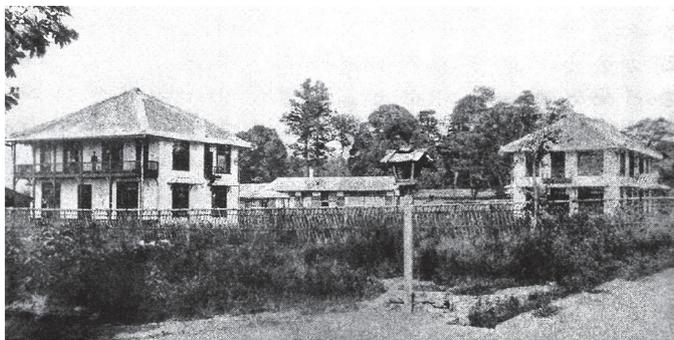
十二月二八日、文部省の田中不二磨を訪ね、帰国の挨拶をする。三二歳、七五三太を襄(Joseph)と改めた。アメリカンボードの指示で一月二十日横浜を船で立ち、二二日大阪着。宣教師ゴードン(アンドーバー神学校の旧友宅(川口居留地)で布教と大学設置の準備を始めた。大阪に滞在していた木戸孝允を訪ね、大学設立の協力を依頼。木戸も積極的に大阪府に働きかけた。候補の学校が渡辺知事の外国人宣教師採用拒否にあつて頓挫。なおこの二年後の一八七八年、キリスト教主義の梅花女学校(後の梅花女子大学)が浪速教会牧師の沢山保羅によつて大阪に設立された。

学校をどこに設けるかで神戸も候補にあつたが人口が五万人と少ないのであきらめ、新島は、三十万人の京都がどんな町か見ておきたいと四月五日に京都に向つた。京都府副知事(後に知事)榎村正直を訪問し、面談を重ねた。榎村は長州の出で木戸孝允と親しい関係にあつた。榎村は京都府顧問の山本覚馬を紹介し、新島は山本邸に行き、挨拶を交した。山本のことはゴードンから聞いていたので、話はキリスト教のこと、キリスト教主義の学校設立に及んだ。それは比叡山を琵琶湖に投げ込むように不可能と言われていた。山本は京都をその学校の候補地にすすめ、自分名義の御所の北側の相国寺門前の土地、当時は一面の桑畑(旧薩摩藩邸)を学校建設用地として安く手放す(坪数五八五五坪、代金五〇〇円)と話し、新島

もこれに同意した。これを機に新島は大阪を離れ、山本宅に住み込んだ。新島は覚馬とゴードンで同志社を結社し、八月二三日に『私塾開業願い』を京都府に提出。しかし、宣教師を教師として雇うことは文部省通達に違反する、また、仏教徒の反対運動の高まりから許可が下りなかつた。急ぎ新島は上京し、折衝相手の文部省に三日間交渉し、事実上の最高責任者、田中不二磨の「許可不苦(許可しても苦しくない)」を得た。こうして、キリスト教主義官許同志社英学校は京都の地に誕生した(一八七五年九月四日認可)。

一八七五年十一月二九日、仮校舎(現在の新島会館)でアメリカン・ボード、山本覚馬らの協力を得て、開校式を開いた(教員は新島とデイヴィスの二人、生徒八名)。新島三三歳、かねてから婚約していた山本八重(三一歳)と一月三日に結婚式をデイヴィス宅であげた。

九月十二日校舎二棟が完成。この前後に熊本洋学校に学んだ生徒がジョーンズの斡旋で同志社に相次いで入校してきた。彼



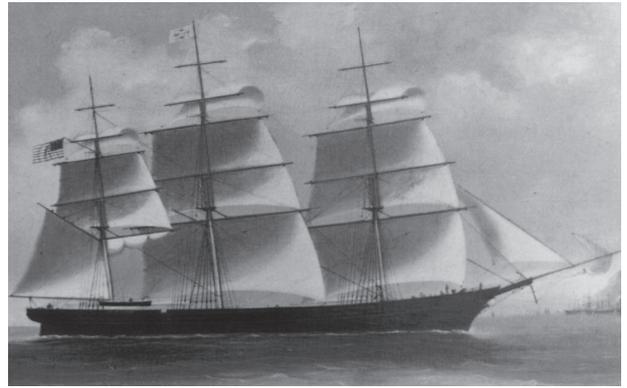
1876年、相国寺門前の同志社英学校最初の校舎

らは教の上では元からいた生徒より少なかったが、学問的水準の高さと気の強さでは彼らと比べて群を抜いていた。ジョーンズの厳しい教育のお陰で彼らは英語の書物を読みこなし、キリスト教の他に化学、物理などの知識も身に付けていた。彼らは開校間もない同志社英学校の程度の低さと設備のみすぼらしさに失望し、以前からいた生徒を軽蔑し、新島校長についてもなめてかかるころがあつた。しかし新島校長はこれらの熊本から来た優秀で独立心の強い志のある元氣者(肥後もつこ)を、変わり者、奇人、変人と型に於て指導することなく、萎縮させることなく、将来『天下の人物』に育つて欲しいと訴え、彼らを抑圧することはなかつた。なお

ラ經由でボストンに向った。テイラー船長^{注⑥}は船中で新島を「Joe (ジョー)」と呼び、我が子のように可愛がり、聖書を与え、英語や航海術、航海日誌の付け方、緯度、経度の測定の仕方^{注⑦}を教え、乗船の礼に新島から贈られた太刀をとても喜んだ。船は出航して四ヶ月後、南北戦争が終わった三ヶ月後の一八六五年の七月二十日にボストンに着いた。

まもなくして、テイラー船長がコッド岬^{注⑧}の家族に会いに出て、新島は一人港に取り残された。船内で船員からあれこれと掃除や雑役を強いらられ、おまけにボストンは戦争で物価が上がり、お前を助ける奇特な人は誰もいないと脅され、先の見通しが立たない不安に押しやられた。そんな時、上海で別れたセイヴォリー船長^{注⑨}が突然現れた。ワイルド・ローバー号の入港を知り、新島が無事着いたか確かめようとしたのである。新島はどんなに驚き、喜んだことか。憂鬱な気持ちたちが吹っ飛んだ。心も落ち着き、古本屋で英文のロビンソンクルソーを見つけ、買って帰り、何度も繰り返し読んだ。クルソーが神に救いを求めて毎日祈っている姿に、新島も「どうか私の大きな志をとげさせて下さい」と、神に救いを求めて祈るようになった。

三ヶ月後、テイラー船長の手紙に気づいた敬虔な清教徒、船主ハーデー夫妻が現れ、新島の脱国の志にいたく感動した。夫妻はジョゼフ・ニイシマ (Joseph Hardy nesima) と名付け、生涯に渡って支援を惜しまなかった。青年の向学心を考え、夫妻とボストンの北四十 km にあるアンドーバー^{注⑩}へ汽車で向った。全寮制フィリップスアカデミーの校長はハーデーが推薦する新島の英語科編入^{注⑪}を認めた。夫妻は英語ができない新島のために下宿生活を用意した。二三歳、新島



新島青年を上海からボストンに運んだワイルド・ローバー号

はアカデミーと隣接するアンドーバー教会で洗礼を受け、キリスト教徒となる。二四歳、一八六七年、フィリップスアカデミー卒業、アマースト大学^{注⑫}専科生となり寮生活を始めた。二五歳、アマースト大学の三年生に編入。二七歳、リュウマチを患う。アマースト大学を卒業 (日本人初の理学士)、アンドーバー神学校入学、牧師をめざした。

一八七一年、二八歳、外交官森有礼^{注⑬}とボストンで会見。国禁を犯した新島の帰国実現のために骨折った森から、留学免許状と旅券が届き、新島は自由な身となった。新島はアメリカで自分が受けた養育費、教育費の一切を日本政府が立て替えた^{注⑭}と、森有礼がハーデー夫妻に申し出る意向であることを知った。もしハーデー夫妻が森の申し出を受け入れてしまうと、自分は日本政府によって拘束されてしまう。自分は自由な日本公民でありたい、神様のために自分を捧げ、つくしたいと願っていたことができなくなると恐れた。しかし、ハーデー夫妻は、『即、断つた』という話を聞いて、新島は胸を撫で下ろした。

二九歳、三月にワシントンの日本大使館を訪れ、森有礼に会い、蘭学仲間の津田仙の娘梅子 (八歳) と出会う。翌日岩倉具視の大使節団の木戸孝允^{注⑮}と懇談した。文部理事官田中不二麿^{注⑯}と会見し、教育事情視察に関する通訳の仕事の委嘱を私的な形でならと引き受けた。新島らはアメリカ東部の諸学校を視察、その後欧州、航路の船で、ロンドン、パリ、スイス、ドイツ、ロシア、オランダ、デンマークの教育事情を視察。新島はベルリンで約五ヶ月をかけ田中の復命報告書を作った。この間、田中の「国政をいっしよにやろう」との懇願を何度も断っている。三十歳、リュウマチ治療でウィスバーデンに五ヶ月留まり、九月パリからニューヨークに戻り、神学校に復帰。三一歳、新島は五月に宣教師志願者試問に合格、アメリカン・ボードの日本国準宣教師に任命された。アンドーバー神学校卒業式で記念スピーチを行う。その後海外伝道協会の総会でキリスト教主義大学を日本に設立することを派して訴え、五千ドルの寄付が集まった。一八七四年十月、ハーデー夫妻と別れ、シカゴ經由太平洋横断鉄道でサンフランシスコに十月二十九日に着く。十月三十一日にコロラド号に乗船し、十一月二六日夕方、横浜港に着いた。宣教師に迎えられる、十年ぶりの帰国であった。



1870年3月アーマスト大学で級友の希望で脱出当時の扮装で撮影、当時27歳



司祭ニコライの勧めで撮った写真を元に原田直次郎が描く肖像画、21歳

と送別会を開いている。

福土卯之吉と意気投合した新島は、なぜ自分は、親や家族と別れ、危険をかえりみず、アメリカに脱国したのか、アメリカではキリスト教を学び、学校で様々なことを学び、日本に尽くしたいといった熱い思いや志を語った。福土も喜んで協力すると約束した。一週間しないうち、沢辺琢磨から話を聞いたとアメリカ人船長セイヴォーリが、「自分は中国まで新島を連れて行くことができる。中国まで行きさえすればアメリカに渡る機会はある」と商社に現れた。こうして福土と船長の二人は船に乗り込む準備を急いだ。新島は自分が急にいなくなったことで脱国を疑われないように、知人に「実家に呼び戻されたので、近々江戸に戻る」と話した。新島は周りの人に悟られないように、町人の服装をし、函館の通りを歩くときには人目につかないように注意した。太刀は差さず、ちよんまげも簡単な形にした。当時の新島の服装を知る手がかり、渡米後アーマスト大学で一八七〇年に求められ、脱出当時の扮装をして撮った写真は左上である。下はロシアの司祭ニコライの勧めで撮った二一歳の脱出前の写真を基にした新島青年の肖像画（油絵）である。一八六四年（二一歳）、脱国の日、七月十七日の夜半、新島は沢辺宅から築地に向った。砂浜を歩くとギユ、ギユという雪駄の音に犬が反応して吠えるのを恐れた新島は、慌てて雪駄を脱ぎ棄て足袋で福土のところまで来た。福土は、雪駄が脱国の証拠品となつてはまずいと考え、裸足で飛び出して雪駄を家まで持ち帰った。細心の注意を払って二人は裏口から出て岸につないだ小舟に乗り込んだ。新島は急いで船底に身を潜め岸から舟が離れるのをじっと待った。そのとき、見張りの役人が近づき、震える声で、「そこにいるのは誰か」と聞いてきた

ので、福土が落ち着いた口調で「私です。アメリカ船船長の依頼品を急ぎ届けるところです」と応えると、顔見知りの福土と分った役人は舟を改めることなく舟の離岸を認め、新島は無事乗船に成功した。手持ちの金はたった四両であった。

（第二話）アメリカ時代―青年はハーデイ夫妻に出会い、支援を受け、清教徒の

町 アンドーバーで高校、大学、神学校で学び、卒業しました

一八六四年（二一歳）、七月十七日夜半、福土卯之吉は岸からかなり遠く離れて停泊していたアメリカ船に小舟を漕いだ。船長は岸から見えない船の反対側で待っていてくれて、新島は福土に別れを告げ、固い握手をし、ベルリン号に乗り込んだ。福土が岸へ漕いで帰るのを見届けた船長セイヴォーリは新島を船室の物置に隠し、鍵をかけた。翌朝早く、税関の役人による検査が終つて船は出航した。正午近くになつて船長が鍵を開け、物置から甲板に出て見た景色は、まさに、函館の美しい町が水平線に消えようとしていた。船は海岸に沿って進み、十二日後には見え隠れしていた青い山々も消えた。それから三日後に船は上海に着いた。新島は船賃のない自分のために用意してくれた仕事に精を出していたが、あるとき、英語ができないため乗客から言いつけられた仕事が理解できないことがあり、その男から唐突に殴られる事件が起きた。「無礼な」と激怒した新島が、慌てて日本刀を取りに戻ったが、自分を、「この程度のこと耐えられなくてどうしてこれから訓練に立ち向うことができるか」と恥じ、以後よく考え行動すべきであると心に誓った。その後武士の命とされる鬚を切り落とした。

上海に着いたベルリン号は再び日本に戻るため、セイヴォーリ船長はアメリカに向う米船に乗せるため、新島を大きな三本マストのワイルド・ローバー号の船長、ホレイス・Sテイラーに引き合わせた。このとき、「お願いです。アメリカに着いたら勉強がしたい。学校に行かせて下さい。そのためにも乗船したら力の限り働きます。」と新島は願ひ出た。船長は笑つて「わかった。学校に行かせる。船長のボーイで働いてもらう。」と約束し、服や帽子、靴をくれた。新島二二歳の一八六五年、船は福州に向い木材を積み、上海に戻り、サイゴンから香港に、マニ

新島襄物語り

「米国に密航し、同志社大学を作った青年、新島襄」

荒木紀幸作

(第一話) 脱出まで ― 鎖国時代、命がけて憧れの自由、文明、キリスト教の国、アメリカに脱出を試みた若者の話です

新島青年は譜代大名家、江戸の安中藩邸、現在の神田錦町、学士会館付近に高級武士の子どもとして一八四三年二月十二日に生まれ(幼名は七五三太)、四方を高級武士の大きな屋敷に囲まれた狭い敷地で育った。一家は常に身分の高い人たちに気を遣って生活していた。九歳の時、こめかみに大怪我をしてからは、荒っぽい遊びを一切止め、手習いや絵、礼儀作法を習った。十歳で学問所で漢学を、十三歳で藩主板倉勝明から三人の一人に抜擢され蘭学を習うが、翌年蘭学教師が長崎に出張し中断。十四歳、思いもかけず藩主が亡くなり、後を継いだ弟は学問嫌いであり、それまで引き立ててくれた家老や漢学の師が亡くなり、これから勉強を続けられるかと悲嘆にくれた。十六歳、藩主の外出帰宅時の出迎え職に就く。執務室での待機になじめず、隠れて蘭学を勉強して何度も上司に叱られた。十七歳、江戸湾に何隻も停泊した恐ろしく大きなオランダ軍艦に肝を潰した。軍艦操練所に入所を許され、アメリカ帰りのジョン万次郎に航海術を学んだ。十八歳、行燈のうす明かりの下で本を読みすぎ、眼を痛めた。十九歳の時、操練所の経験を買われ、アメリカ製帆船快風丸(180トン)で三ヶ月間航海し、開放感を満喫。海の外の世界に関心が向う。上意下達という息苦しい封建社会の中で二十歳になった新島は英学も学び始めた。国禁の「アメリカの歴史地理」を命の危険

を感じながら隠れて読んだ。アメリカでは大統領を選挙で決めることや授業料のいらぬ学校があることを知り、**「すべての国の為政者はアメリカの大統領のようでなければならぬ」と**考えた。こうして新島青年は幕府の政策に不満をつのらせていった。また漢訳聖書の説く**「天地の創造主に強く憧れ、「ロビンソン漂流記」の主人公が冒険の旅に出た姿に勇気づけられ、自由とキリスト教の国、アメリカに行ってみたくないと考えるようになった。**

そんなある日、松山藩の快風丸乗組員の友人、塩田虎尾から、「四、五日後に快風丸が江戸を出て函館に向うことになっているが、乗船する気はないか」とたずねられた。それを聞いた新島青年に、突然、「この好機を逃すな、海外へ脱出を囃れ」という良心の声が心の奥から聞こえ、それと共に、快風丸に無償で乗船する合法的な方法が頭に浮かんだ。それは、安中藩主の**「本家筋にあたる松山藩主が所有するアメリカ製の快風丸が江戸から倉敷に向けて初航海することになり、航海術の心得のあるものとして、板倉周防守が新島に修業を仰せつけるという形で乗船の許可を与えられたことがあった。そこで藩の目付役飯田逸之助を介し板倉周防守宅を訪ねたところ、喜んで出張許可と乗船勤務を承諾してくれた。その上、安中藩の「承諾」の手配もしてくれた。その夜は興奮して殆ど寝られなかった。翌日、主君からの許可が届けられた。新島はそのことを知ったとき、感激して思わず、「ああ天、我を棄てざるか」と叫んだ。こうして、函館行き(武田斐三郎の塾へ留学)が決り、近所の人や友を交え水杯の送別会、が行われた。藩主から修業料手当等十五両を貰い、餞別を含め二五両を持って、アメリカへの脱出を胸に秘め、我が家を出発した。**

武田は江戸開成所教授就任で不在。塾長の菅野精一郎は親身に七五三太の相談にのった。英語を学ぶならとロシア領事館聖堂のニコライ司祭を紹介。一ヶ月後、新島は日本語教師として古事記を教え、ニコライは求めに応じ、施設、薬剤共に優れたロシア病院で目の治療を受けさせ、代数学(英語版)を与えたが、日本語のできなないロシア人英語教師に失望。この悩みを知った菅野と旧知の沢辺琢磨(坂本龍馬の従兄弟)は英語堪能で海外に詳しい英国貿易商社員の福士卯之吉を紹介した。その後も沢辺はアメリカ行の船を探し、決行日に自宅で菅野、塩田